

此ノ分岐線延長約一杆九（内隧道約一杆二）トス。
隧道各入口及下關側分岐線ト本路線トノ連絡ハ往復車輛ニ對シ
總テ高低交叉セシムルモノトス。
此ノ全路線延長約五杆四（内隧道四杆二）トス。

(二) 勾配

最急縦斷勾配

四〇%

横斷勾配

〇五%

(三) 隧道横斷形狀（圖面參照）

(1) 海底隧道

形狀、圓形、二段式、往復交通式、最小岩被十三米

車道幅員、七米五

上段ハ自動車専用トシ下段ハ歩行者及自轉車ノ通路ニ充

テ、海峽兩岸ノ陸上道路トノ連絡ハ昇降機ニ依ル。

建築限界、道路構造令國道規格甲

路面、特殊塊鋪裝

覆工、外面鐵板卷コンクリート工

(四) 取付隧道

形状、仰拱馬蹄型、一段式、往復交通式

圓型、一段式、一方交通式

車道幅員、仰拱馬蹄型、(七米五)

圓型、(五米五)

何レモ自動車専用トス

建築限界、路面、覆工ハ前全斷

(四) 取付道路

取付道路ハ總延長一五〇米ニシテ、下關側一〇三〇米(内前

田側三五〇米壇之浦側六八〇米)門司側一二〇米トシ幅員ハ有

效七米五トス。

(五) 經營設備

(1) 隧道換氣

換氣所ハ下關側三ヶ所、門司側二ヶ所、五ヶ所トシ隧道内車

道ノ上下ハ排氣室及送氣室ヲ配置シ横方向流動式換氣裝置ヲ
施ス。

(四) 其他

排水設備、照明設備、電話設備、火災報知及消火設備、車臺
檢數器、重量表記器、洗滌機械、受電設備、交通標識等ノ諸
設備ヲ施スモノトス。

二 隧道施工法

主トシテ素掘工法ニ依リ、含水箇所ニハ膠泥注入ヲ施ス。

三 工事費

關門隧道改良工事

總延長 五三四〇米

隧道 四一九〇米

取付道路 一、一五〇米

工費 金壹千七百萬圓也

關門隧道工事年度割

年 度	工 事 費	寧 務 費	計
昭和十四年度	四七〇,〇〇〇 円	三〇〇,〇〇〇 円	五〇〇,〇〇〇 円
昭和十五年度	三,〇〇〇,〇〇〇	一八〇,〇〇〇	三,一八〇,〇〇〇
昭和十六年度	五,〇〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	五,三〇〇,〇〇〇
昭和十七年度	五,〇〇〇,〇〇〇	三〇〇,〇〇〇	五,三〇〇,〇〇〇
昭和十八年度	三,五三〇,〇〇〇	二一〇,〇〇〇	三,七四〇,〇〇〇
計	一七,〇〇〇,〇〇〇	一,〇二〇,〇〇〇	一八,〇二〇,〇〇〇

關門隧道工事物資需要額

品名	單位	第十四年度	第十五年度	第十六年度	第十七年度	第十八年度	計
普通鋼材	噸	二九二	二八三〇	四〇五〇	五四九〇	三一三八	一四八〇〇
特殊鋼材	"	一七	九二	五〇	一四一	一	三〇〇
普通鐵	"	三六	一三四	三〇	一六八	一二	四〇〇
瀝氣銅	"	八	一〇三	一五	一八三	九	三一八
鉛	"	一	四二	一〇	四三	四	一〇〇
錫	"	二	七	六	三	二	一八
炭	"	二五	九〇	一五〇	一四五	九〇	五〇〇
重油	斗	五	二〇	三二	三八	一五	一〇〇
普通煤油	"	一五	一八	三〇	二四	一三	一〇〇
木材	立米	二〇〇〇	二七〇〇	四五〇〇	四一〇〇	一七〇〇	一五〇〇〇
生石灰	噸	一	二	三	三	一	一〇

極秘

關門海峽綜合改良計畫

附屬文書ノ三（小倉地先ノ鐵道施設）

（改訂版）

小倉地先ノ工業地帯及港灣ニ對スル鐵道施設ヲ計畫スル事次ノ如シ

一、第一期工事差當リノ措置

二、將來港灣ノ竣成竝ニ工業地帯發展ニ伴フ措置

第一項 第一期工事差當リノ措置

A、鹿兒島本線小倉驛附近ヨリ分岐シ新港灣ニ至ル線路ヲ敷設ス
埠頭地帯ニ對シテハ左ノ設備ヲナス

イ、到着線 (六〇〇米) 一本

ロ、機關車廻線 (五〇〇米) 一本

ハ、留置線 (四五〇米) 三本

ニ、縦ホ丨ム 一基

ホ、卸下ホ丨ム (斜坂付) 四〇〇米

B、費額

臨港線 一、一〇〇、〇〇〇圓

C、所要鐵材

臨港線 一、〇〇〇噸

第二項 將來港灣ノ竣成竝ニ工業地帯發展ニ伴フ措置

A、小倉地先港灣及工業地帯ニ對スル臨港線ヲ利用スル貨物ハ大約
左ノ如ク想定ス

イ、雜貨 五〇〇、〇〇〇圓

ロ、石炭（バンカー用） 一、三〇〇、〇〇〇圓
工業地帯消費 一、三〇〇、〇〇〇圓

計 一、八〇〇、〇〇〇圓

之ニ對シ貨物操車場ヲ必要トス
若シ埋立豫定地内ニ敷設セラルル場合ニハ之ガ用地約二十萬平米
ヲ保留ヲ要ス

尙將來計畫ニ屬スル埠頭位ニ工業地帯ニ於ケル鐵道線路ハ必要
ニ應ジ敷設スルモノトス

B、費額 五、〇〇〇、〇〇〇圓
貨物操車場

C、所要鐵材 五、〇〇〇圓
貨物操車場

極秘

關門海峽綜合改良計畫

附屬文書ノ四（稅關施設）

（再訂）

一 小倉及戸畑地先ノ埋立ニ關スル件

將來同方面ハ工業地帯トシテ開發セラレ埋立地ハ順次民間ニ拂下セラ
ルヘク豫想セラルモ

(1) 勘クトモ埠頭及其ノ基部ノ適當部分ハ將來ト雖之ヲ國有地トシテ保
有シ

(2) 突堤東側幅員七三米ノ地域及同突堤東側基部ヨリ東方へ五五〇米西
方へ七三米其ノ延長六二三米ト幅員一五〇米ノ地區（其ノ總面積一
二九九五〇平方米）ヲ稅關用地トシテ一般外國貿易地帯ニ充テ其ノ
内物揚場ハ之ヲ舢舨荷役用ニ供シ構内ニ稅關出張所（旅具検査場等
ヲ含ム）、上屋一棟、舢舨橋等ノ施設ヲ爲シ

(3) 埠頭東側ニ官設上屋三棟ヲ建設シ其ノ後方ニ鐵道引込線及線路ヲ施
設ス

(4) 荷役用トシテ起重機ヲ物揚場沿ニ一基（電氣可動式揚力二噸程度）
岸壁沿ニ三基（電氣可動式揚力五噸ノモノ一基、同二噸及同一噸半

程度ノモノニ基）及先端護岸部ニ一基（電氣定置式揚力三十噸程度）設置ノ要アリ

(5) 船舶繫離用曳船二隻ヲ配置スルコト

(6) 埠頭爾餘ノ部分ハ情勢ニ應シ公民營上屋又ハ倉庫地帯ニ利用セシム

(7) 官設上屋地帯ト其ノ他ノ地帯ハ必要ニ依リ木柵ヲ以テ區分シ適宜門扉ヲ附ス

右ニ要スル大藏省所管經營概算額左ノ如シ

出張所廳舎新營費 一〇四四五〇圓

構内鋪裝（道路ヲ含ム）
其ノ他附屬施設費 五三一〇二〇

浮棧橋 一基 一五〇〇〇

見張所 一ヶ所 三〇〇〇

監所 二棟 一、四〇〇

上屋 四棟 七三〇、八〇〇

船舶給水設備 一 一、二〇〇〇

鐵道引込	七〇、四〇〇〇圓
曳船二隻	一、三〇四、〇〇〇
變電所及變電機	三〇、四五〇
起重機	三六四、〇〇〇
同軌道及地下線路	八〇、〇〇〇
官舎新營費（敷地買收費 ヲ含ム）	一六〇、〇〇〇
雜費	三二六、三〇〇
計	三、五八八、八二〇

ニ、田野浦地先ノ埋立ニ關スル件

田野浦地先埋立地ニ於ケル外國貿易地帯ハ將來ニ於ケル情勢ニ應シ
將來計畫ニ屬スル突堤ノ利用ニ付適當ノ考慮ヲ拂ハルルコトトシ差
當リ其ノ總面積約五七〇〇〇平方米（岸壁西端ヨリ長サ一二五米ヲ
除キ長サ七六五米、幅員平均七五米トス）ヲ之ニ充テ左ノ税關施設
ヲ行フモノトス

（一）税關分室（旅具検査場ヲ含ム）及海陸交通場所トシテノ浮淺橋ヲ
設ケルコト

（二）海岸沿ヒニ官設上屋三棟ヲ建設シ其ノ後方ニ鐵道引込線及道路ヲ
施設スルコト

（三）荷役用起重機四基（電氣可動式揚力二噸程度三基及電氣定置式揚

力五噸程度一基）ヲ設置スルコト

右ニ要スル大藏省所管經營概算額左ノ如シ

名稱	小計
廳舍	六七二〇〇圓
附屬家	四〇、千五〇〇
電燈設備	四六〇五
電話、電鈴、電氣時計設備	一〇、七四五
衛生設備	五〇〇〇
構内排水設備	三五〇〇
構内鋪裝（通路混凝土敷又ハ「アスファルト」共）	二五二、〇〇〇
浮棧橋	一五〇〇〇
見張所	五、二五〇
信號柱	三、〇〇〇
外柵	一〇、四〇〇
	計

上屋（三棟）	九四五〇〇〇
電燈設備	三一五〇〇
電燈、電話、起重機用電力、電氣時計	二六七七五
用地下線	
船舶給水設備	七六五〇
變電所	九四五〇
變電機	二一〇〇〇
監所（二棟）	一、四〇〇
起重機用軌道	四〇〇〇〇
起重機	一八〇〇〇〇
、	五〇〇〇〇
列車用鐵道	六九六〇〇
雜費	一七九九三五
計	一、九七九二六〇

圓

田野浦地先埋立地稅關設備工事年額內譯書

金百九拾七萬九千貳百六拾圓也

總工費

內 譯

金六拾萬四千九百七拾四圓

第一年度支出額

金五拾貳萬五千七百拾八圓

第二年度支出額

金五拾壹萬五千百參圓

第三年度支出額

金拾四萬七千貳百參拾五圓

第四年度支出額

金拾八萬六千貳百參拾圓

第五年度支出額

此 內 譯

區別	數量	單價	金額	第一
廳舍	一九二坪	三五〇	六七二〇〇	六七二
附屬	十一五	三五〇	四〇二五〇	四〇二
電燈設備延	三〇七	一五	四六〇五	四六
電話、電鈴、電氣時計設備	三〇七	三五	一〇七五五	一〇七
衛生設備	一式	五〇〇〇	五〇〇〇	五〇
構內排水設備	一	三五〇〇	三五〇〇	三五
構內鋪裝(通路共)	一四〇〇〇坪	一八	二五二〇〇〇	二五二
浮棧橋	一式	一五〇〇〇	一五〇〇〇	一五〇
見張所延	一五坪	三五〇	五二五〇	五二五
信號柱	一基	三〇〇〇	三〇〇〇	三〇〇
外柵	五二〇間	二〇	一〇四〇〇	一〇四
上屋(三棟)延	三一五〇坪	三〇〇	九四五〇〇〇	九四五
電燈設備	三一五〇	一〇	三、一五〇〇	三、一五〇
電燈、電話、起重機、電力、電氣時計用地下線	七六五米	三五	二六七七五	二六七

區別	數量	單價	金額	支出年度					附記
				第一年度	第二年度	第三年度	第四年度	第五年度	
廳舍	一九二坪	三五〇	六七一〇〇	六七一〇〇					鐵筋混凝土造 平家建
附屬	一五	三五〇	四、七五〇	四、七五〇					
電燈設備	延 三〇七	一五	四、六〇五	四、六〇五					
電話、電鈴、電氣時計設備	延 三〇七	三五	一〇、七四五	一〇、七四五					
衛生設備	一式		五、〇〇〇	五、〇〇〇					洋式水洗便所
構内排水設備	一		三、五〇〇	三、五〇〇					主管ヒユーム イブ埋設
構内舗装 (通路共)	一四、〇〇〇坪	一八	二五、二〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇	混凝土敷又ハ アスファルト
浮棧橋	一式		一五、〇〇〇		五、二五〇			一五、〇〇〇	浮函鐵筋混凝土 造渡橋鐵骨造鈎 上裝置共
見張所	延 一五坪	三五〇	五、二五〇		五、二五〇				鐵筋混凝土造 二階建
信號柱	一基		三、〇〇〇		三、〇〇〇				鐵骨造
外柵	五二〇間	二〇	一〇、四〇〇	一〇、四〇〇					木造
上屋(三棟)延	三、一五〇坪	三〇〇	九四、五〇〇	三、一五〇	三、一五〇	三、一五〇			鐵筋混凝土造平 家建三棟、〇五〇坪
電燈設備	延 三、一五〇	一〇	三、一五〇	三、一五〇	三、一五〇				
電機、電力、起 重機、電話、電 氣時計用地下線	延 七六五米	三五	二六、七七五	八、九二五	八、九二五	八、九二五			

計	雜費	列車用鐵道	起重機	起重機用軌道	監所(二棟)延	變電機	變電所	船舶給水設備延	
	一式	八七鎖	一	三臺	五〇鎖	四坪	一式	二七坪	七六五米
		八〇〇	五〇〇〇	六〇〇〇	八〇〇	三五〇		三五〇	一〇
一九七九二六〇	一七九三三	六九六〇〇	五〇〇〇〇	一八〇〇〇〇	四〇〇〇〇	一四〇〇	二〇〇〇	九四五〇	七六五〇
六〇四	五	一三			八				一

船舶給水設備延	變電所	變電機	監所(二棟)延	起重機用軌道	起重機	列車用鐵道	雜費	計
七六五米	二七坪	一式	四坪	五〇鎖	三臺	八七鎖	一式	
一〇	三五〇		三五〇	八〇〇	六〇〇〇〇	八〇〇		
七六五〇	九四五〇	二,〇〇〇	一,四〇〇	四〇〇〇〇	一八〇〇〇〇	六九六〇〇	一七九九三五	一九七九二六〇
一,五三〇				八〇〇〇		一三九二〇	五四九九九	六〇四九七四
一,五三〇			一,四〇〇	八〇〇〇	六〇〇〇〇	一三九二〇	四七七九三	五二五七一八
一,五三〇				八〇〇〇	六〇〇〇〇	一三九二〇	四六八二八	五一五一〇三
一,五三〇				八〇〇〇	六〇〇〇〇	一三九二〇	一三三八五	一四七二三五
一,五三〇	九四五〇	二,〇〇〇		八〇〇〇	五〇〇〇〇	一三九三〇	一六九三〇	一八六二三〇
	鐵筋混凝土造 平家建		鐵筋混凝土造平 家建 一棟二坪	可動式電氣二噸	定置式電氣五噸	稅關用地內建設		

主要物資需要額調

田野浦地先埋立地稅關設備工事所要主要物資

物 資	單 位	第一年度	第二年度	第三年度	第四年度	第五年度	計
普通鋸齒材	匙	七六一	六三〇	六一七	八六	一五一	二、二四五
特殊鋸齒材	、						〇
特殊鋸齒材	、						〇
普通銑鐵	、	三八	三八	三八	三八	三八	一九〇
電氣銅	、		一	一		二	四
鉛	、	六	六	六			一八
亞鉛	、						〇
木材	立米	二、八一〇	二、二二〇	二、一八三	八三	一四三	七、四三九
重油	、						
普通揮發油	、						
瀝青炭	、						

三、繫船浮標ノ移設及新設ニ關スル件

關門海峡綜合改良計畫施行ニ伴ヒ現在門司港港域内ニ所在スル繫船浮標ニシテ差當リ移設スルヲ要スルモノアリ又小倉及戸畑地先埋立地竝ニ田野浦地先埋立地ノ兩沖合ニ新設スルヲ要スヘキ繫船浮標アルモノトス

右ニ要スル大藏省所管經費概算額左ノ如シ

(一) 繫船浮標移設所要經費

移設七箇及標體取替

七九〇四五圓

(二) 繫船浮標新設所要經費

(イ) 小倉及戸畑地先埋立地沖合分

六箇(一七千屯級乃至一萬屯級)

四七七七九二圓

備考 右ハ直ニ設置可能ニシテ浚渫後ニ於テモ増設ノ餘地ナキ

モノト認メラル

(ロ) 田野浦地先埋立地沖合分

五箇(五千屯級)

三九八一六〇圓

備考 右ノ内二箇ハ直ニ設置可能ニシテ他ノ三箇ハ第一期浚渫

工事完成セハ増設可能ナリト認メラル

小倉及戸畑地先埋立地沖合繫船浮標新設工事
年額内譯書

一金四拾七萬七千七百九拾貳圓也

内譯

總工費

金貳拾參萬八千八百九拾六圓也
金貳拾參萬八千八百九拾六圓也

第一年度支出額
第二年度支出額

此内譯

區別	數量	單價	金額	支出年度		附記
				第一年度	第二年度	
繫船浮標	六箇	七九六三二〇〇	四七七七九二〇〇	二三八八九六圓	二三八八九六圓	

繫船浮標新設	計 (繫船浮標壹個分新設費)	沈垂ト主鎖トノ 取付用接環	沈 錘	沈垂ト鎖鎖トノ 取付用接環	鎖	鎖鎖接續用接環	片爪鎖ト鎖鎖トノ 取付用接環	片爪鎖	構成及碇置	雜費
		經一二七耗 ハーフ型	鑄鐵製重量二五噸	經一〇〇耗	、七六耗 長二七七七米	經一〇〇耗	、一〇〇、	鑄鋼製重量十噸		
六個		一個	一條	三個	三個	三個	三個	三個	一式	一個
七九六三二〇〇		六六〇〇〇	六六六七〇〇	二九七〇〇	五一九四〇〇	二六四〇〇	二九七〇〇	五九八四〇〇		
四七七七九二〇〇	七九六三二〇〇	六六〇〇〇	六六六七〇〇	八九一〇〇	三一、一六四〇〇	七九二〇〇	八九一〇〇	一七九五二〇〇	一、八〇〇〇〇	三、七九二〇〇

小倉及戸畑地先埋立地沖合繫船浮標新設工事
 主要物資調

物 資	單 位	第一年度	第二年度	計
普通鋼鋼材	噸	二四	二四	四八
普通銑鐵	'	二七〇	二七〇	五四〇

田野浦地先埋立地沖合繫船浮標新設工事年度額內譯書

一金參拾九萬八千百六拾圓也 總工費

內譯

金拾五萬九千貳百六拾四圓也 第一年度支出額

金貳拾參萬八千八百九拾六圓也 第二年度支出額

內譯

繫船浮標	區別	數量	單價	金額	支出年度		附記
					第一年度	第二年度	
五箇			七九六三二〇〇	三九八一六〇〇〇	一五九二六四圓	二三八八九六圓	

田野浦地先埋立地沖合繫船浮標新設工事概算書
 一金參拾九萬八千百六拾圓也

內譯

名稱	摘要	員數	單價	小計
浮標體	上經三六六米 高サ二四四米底經一、二二米	一筒	九〇〇〇〇〇	九〇〇〇〇〇
浮標用接環	ハープ型 經一二〇耗	一條	五四四〇〇	五四四〇〇
上端用主鎖	經三八八米 長三、二八米	一條	九七六〇〇	九七六〇〇
轉環上端用接環	經一二〇耗	一個	四四五〇〇	四四五〇〇
轉環	九八	一個	八五八〇〇	八五八〇〇
轉環下端用接環	一二〇	一個	三四六〇〇	三四六〇〇

構成及設置	片爪錨	片爪錨下錨鎖下ノ取付用接環	錨鎖接續用接環	錨鎖	沈錘下錨鎖下ノ取付用接環	沈錘	沈錘下主鎖下ノ取付用接環	主鎖
	鑄鋼製重量十屯	一〇〇斤	經一〇〇斤	長二七六斤 長二七七米	經一〇〇斤	鑄鐵製重量二五屯	經一二七斤 ハーフ型	長一〇八八 六六七二米
式			個	條			個	條
	一、八〇〇〇〇	五、九八四〇〇	二、九七〇〇	二、六四〇〇	五、一九四〇〇	二、九七〇〇	六、六六七〇〇	六、六六七〇〇
	一、八〇〇〇〇	一、七九五二〇	八、九一〇〇	七、九二〇〇	三、一、一六四〇〇	八、九一〇〇	六、六六七〇〇	六、六六七〇〇
	一、八〇〇〇〇	一、七九五二〇	八、九一〇〇	七、九二〇〇	三、一、一六四〇〇	八、九一〇〇	六、六六七〇〇	六、六六七〇〇

繫船浮標新設	計 (繫船浮標壹個分新設費)	雜費
五個	一式	
七九六三二〇〇		
三九八一六〇〇〇	七九六三二〇〇	三七九二〇〇



〇 島姫



六連島

島良合和

辰瀬安

武久

下関市

前田

早瀬

明神島

門司

門司

門司

門司

門司

門司

門司

門司

門司

門司

門司

門司

門司

門司

門司

壺之浦町

唐戸町

南部町

神町

細江町

竹崎町

伊崎町

小門

戸瀬小

天郷

本村

彦島

江ノ浦

弟子待

廣石

白水崎

甚菜

西山

獅子島

江瀬

瀬平

台場島

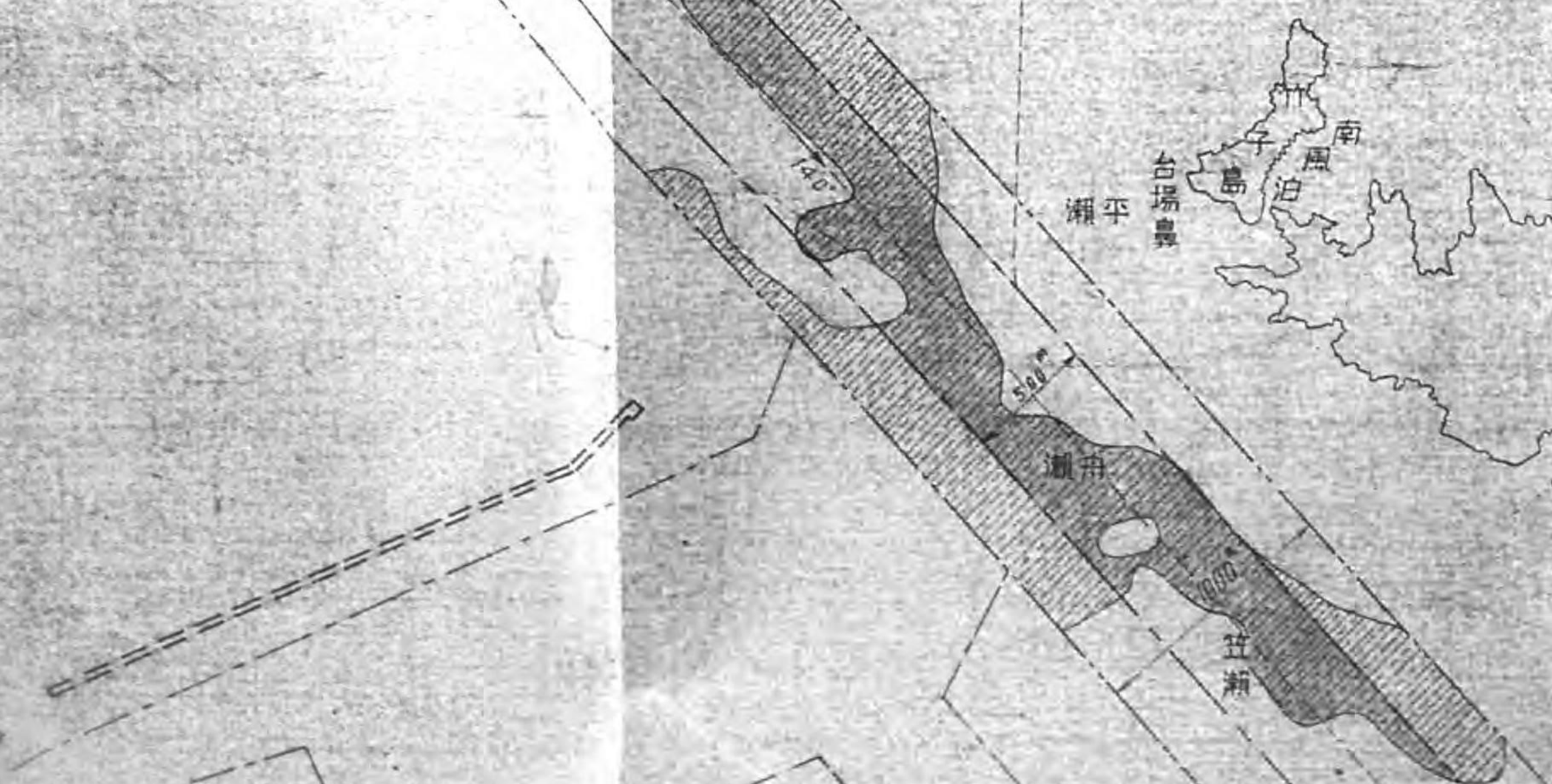
南島

白島

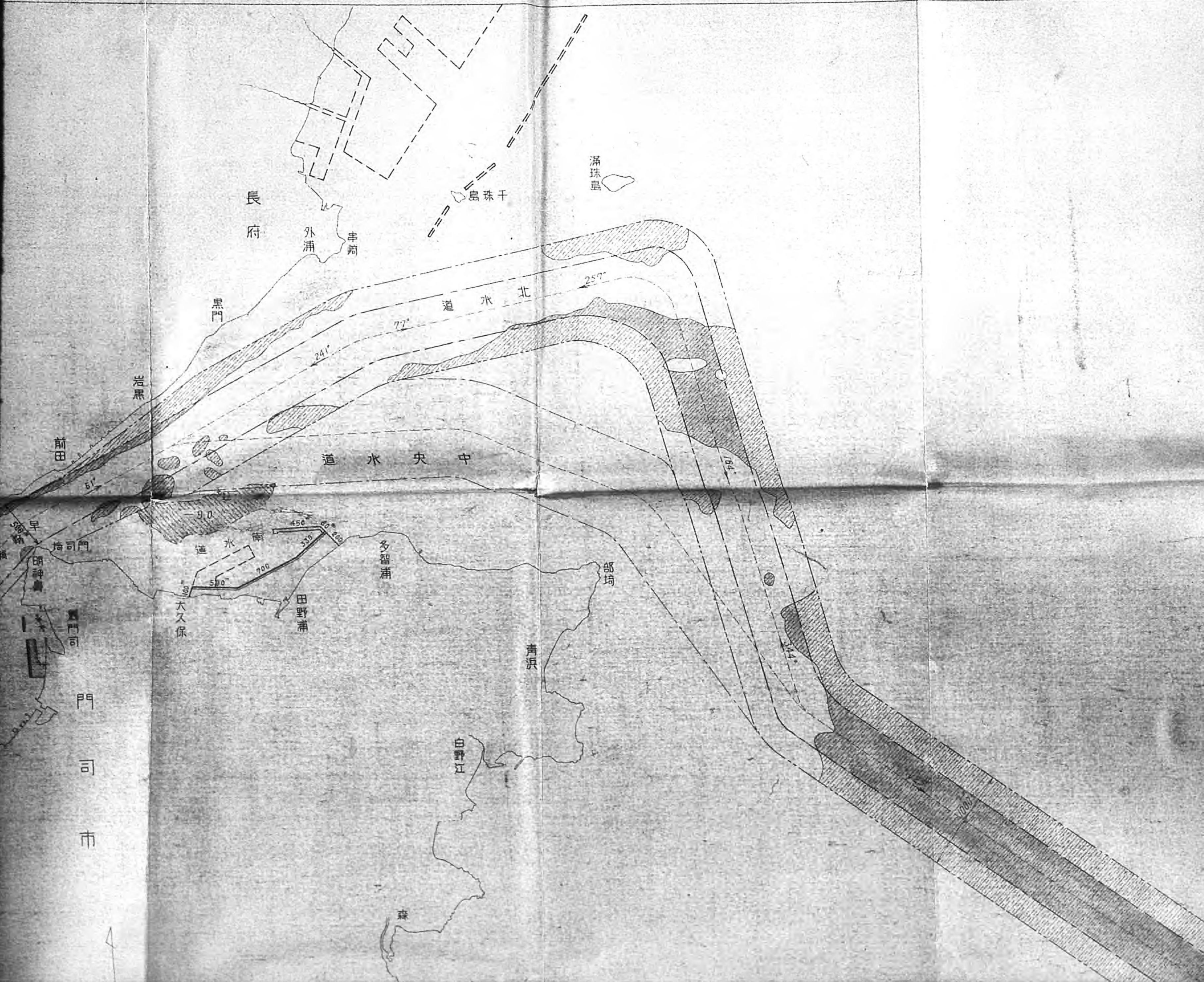
子島

島

戸瀬



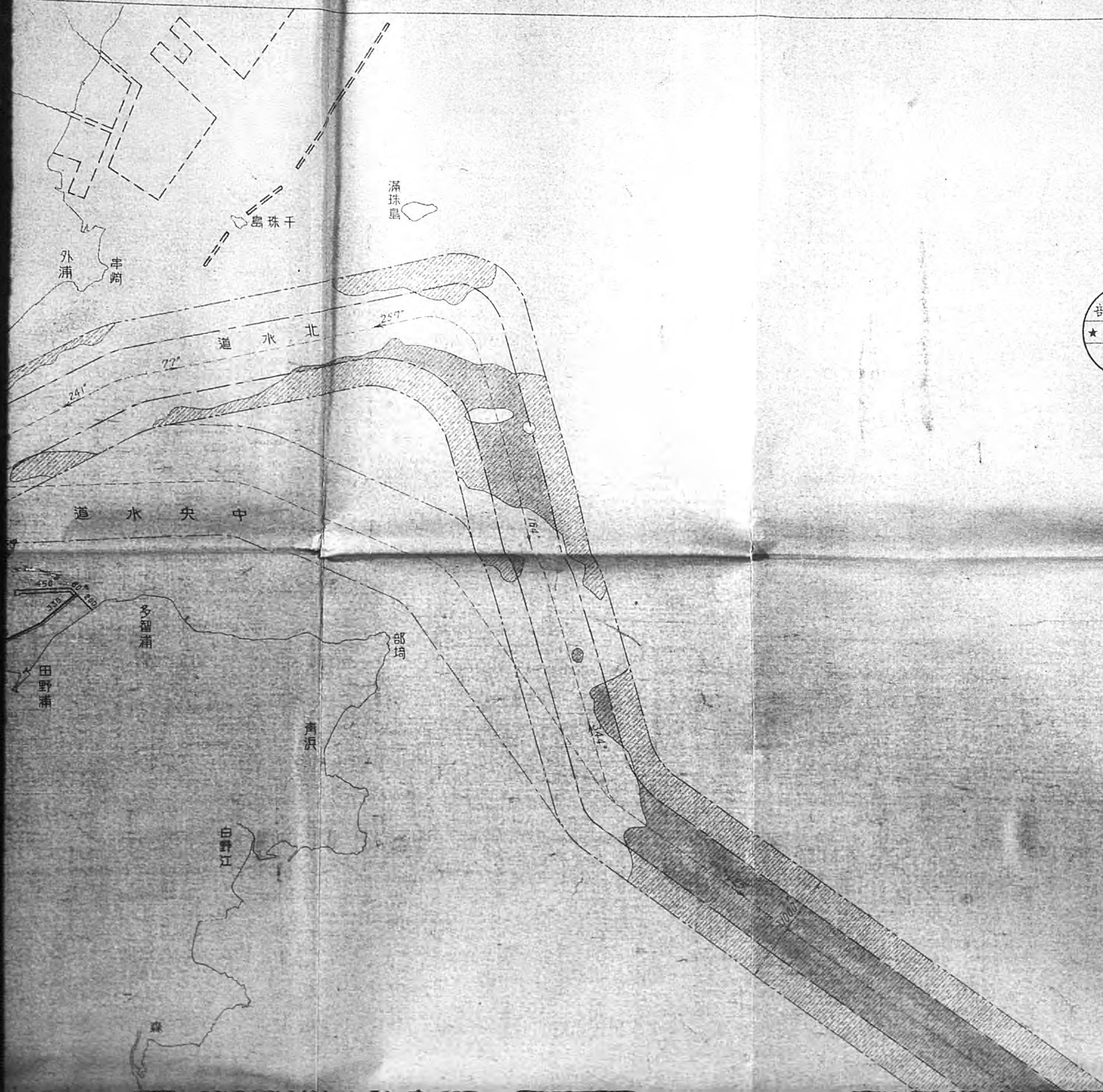
關下
部令司塞要
★ 14.10.11 ★
濟查檢



關門海峽綜合改良計畫平面圖

極秘
一一

關下
部令司塞要
★ 14.10.11 ★
濟查檢



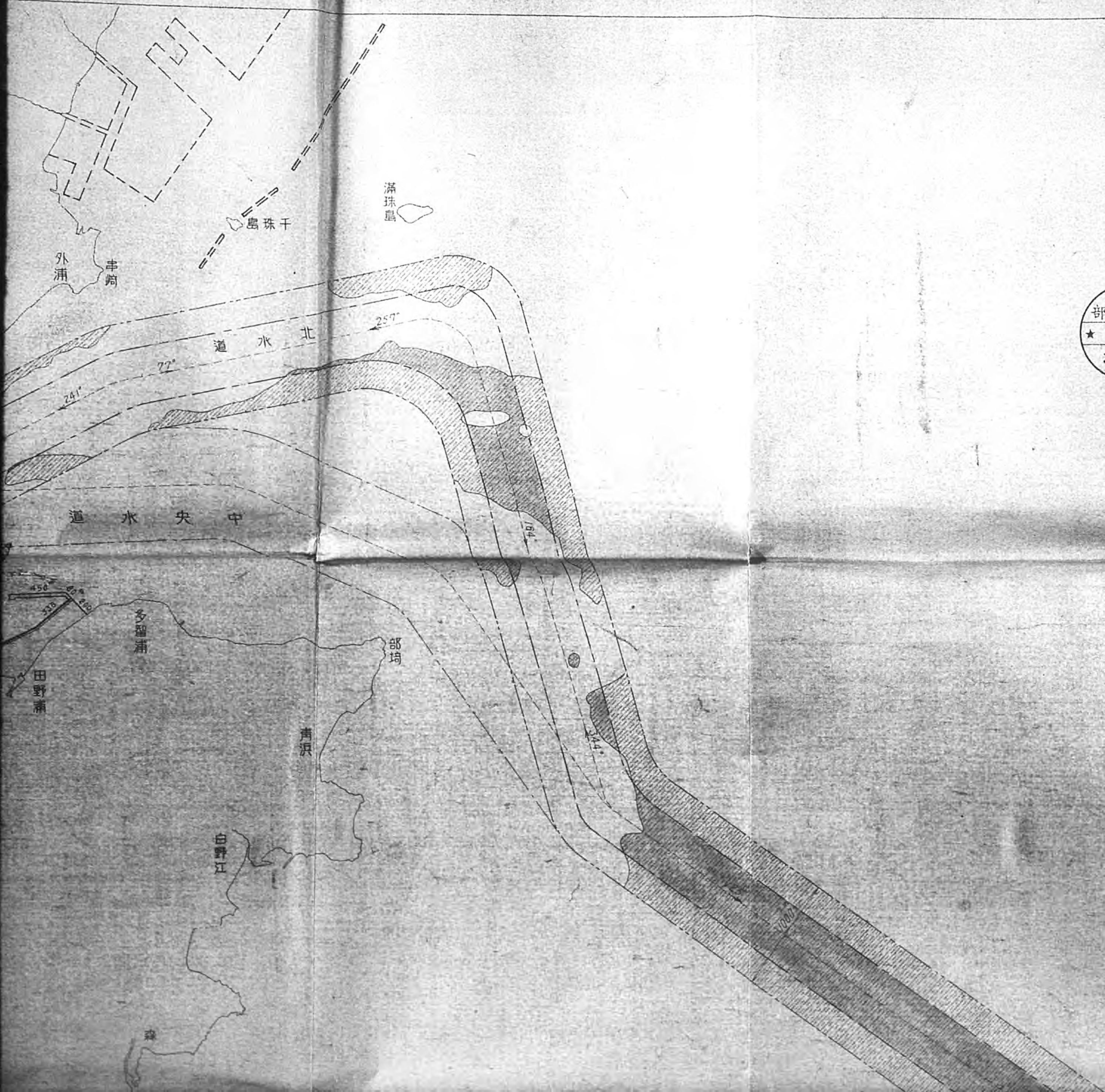
昭和十四年十月十一日
關門海峽綜合改良計畫
第一號
關門海峽綜合改良計畫
第一號

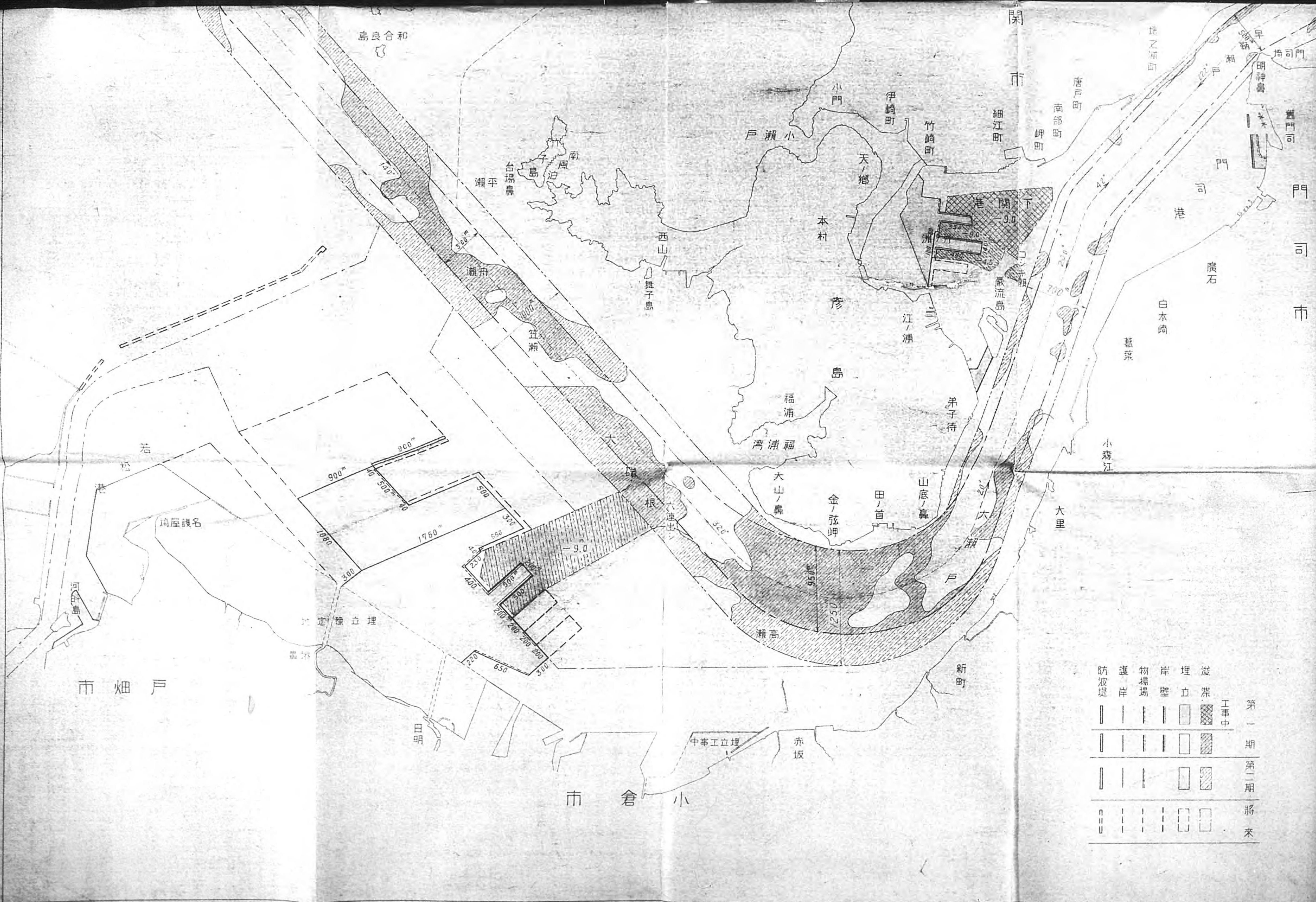
昭和十一年八月一日... 關門海峽... 綜合改良計畫...

關門海峽綜合改良計畫平面圖

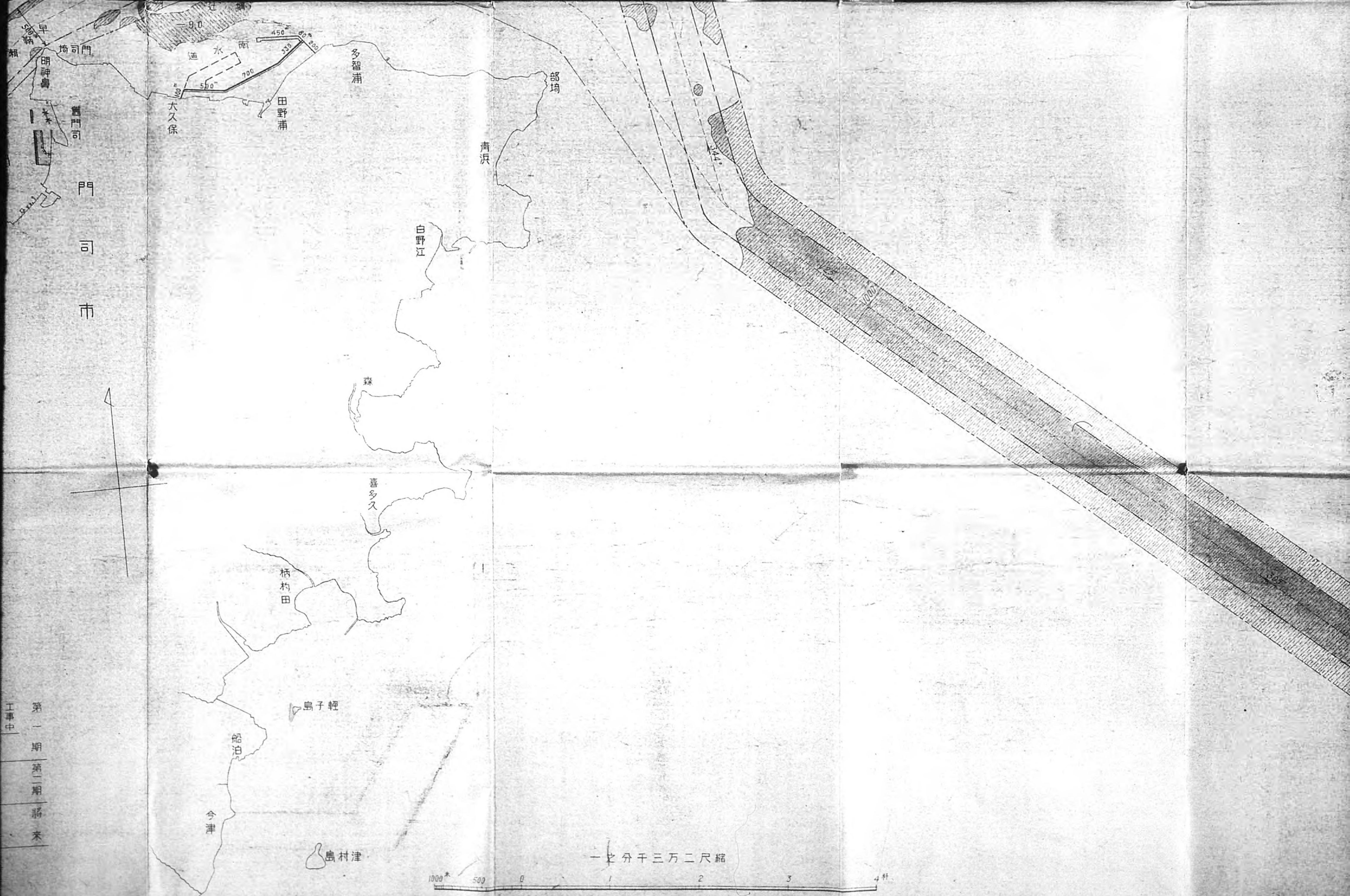
極
秘
一一

關下
部令司塞要
★ 14.10.11 ★
濟查檢





防波堤	護岸	物揚場	岸壁	埋立	浚渫	工事中	第一期	第二期	將來



早崎
明神島
門司市

南水通
大久保
多智浦
田野浦

部崎

青浜

白野江

森

喜多久

柄杓田

島子輕

船泊

今津

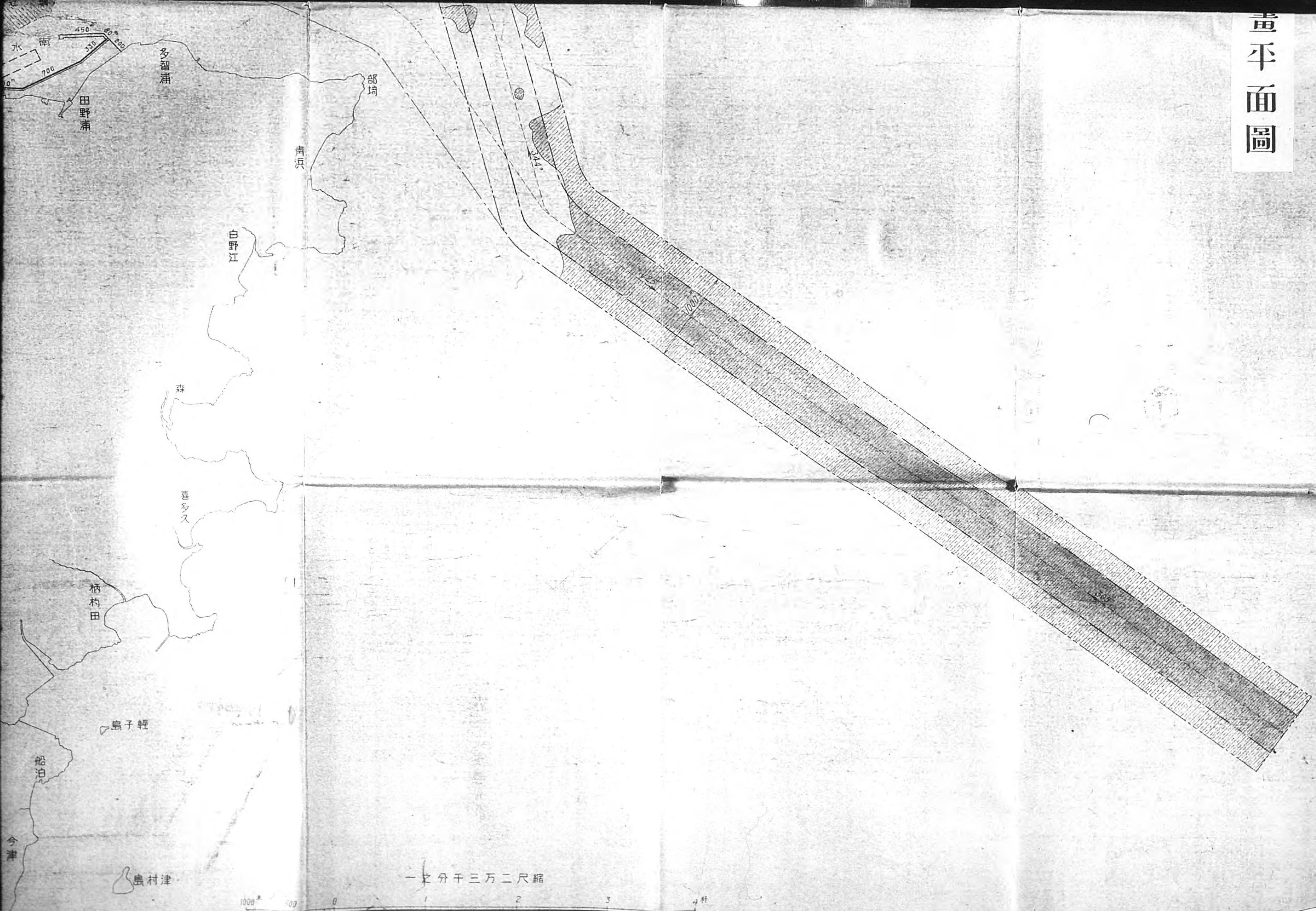
島村津

縮尺二萬三千分一



工事中
第一期
第二期
將來

畫平面圖



參考

關門海峽綜合改良計畫第一期工事費一覽表

第一 (航路及港灣) (單位 千圓)

種別	昭和一五	昭和一六	昭和一七	昭和一八	昭和一九	昭和二〇	昭和二一	昭和二三	計
航路改良費	九〇〇〇	一五五〇〇	六三五〇	六三五〇	六三五〇	六三五〇	一	一	四九九〇〇
臨海地帯造成費	四四〇〇	五二〇〇	五〇〇〇	四六三〇	一〇八〇	一〇六〇	一	一	二六二七〇
下關港修築費	二四〇〇	二四〇〇	二二七六	二二七〇	二二六〇	一	一	一	九六〇六
門司港修築費	八八〇	八八〇	五七〇	五七〇	八五〇	八五〇	八五〇	八六〇	六三一〇
小計	一六六八〇	二三八八〇	一四一九六	一二八二〇	九五四〇	八二六〇	八五〇	八六〇	八七〇八六

第二 (航路標識及海底電線) (單位 千圓)

種別	昭和一五	昭和一六	昭和一七	昭和一八	昭和一九	昭和二〇	計
航路標識	四一六・三	四七八・四	四五〇・五	五〇六・六	五四三・五	一	二三九五・三
海底電線			六六	六六	三〇二	一一七	五五一
小計	四一六・三	四七八・四	五一六・五	五七二・六	八四五・五	一一七	二九四六・三

第三（小倉地先ノ鐵道施設）

（單位 千圓）

昭和一五	昭和一六	昭和一七	昭和一八	計
1	1	550	550	1,100

第四ノ一（稅關施設）

（單位 千圓）

種別	昭和五七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	計
小倉地先	1	472	633	479	1,152	854	1	1	1	3,589
田野浦地先	1	1	1	1	605	525	515	147	186	1,978
小計	1	472	633	479	1,757	1,379	515	147	186	5,567

第四ノ二（稅關施設ノ内繋船浮標）

（單位 千圓）

種別	昭一五	昭一六	昭一七	昭一八	昭一九	昭二〇	昭二一	昭二二	計
小倉地先 (新設)	1	1	239	239	1	1	1	1	478
田野浦地先 (新設)	1	1	1	1	1	1	159	239	398
門司港 (移轉)	1	40	39	1	1	1	1	1	79
計	1	40	278	239	1	1	159	239	955

第五 (鐵道關門隧道)

(單位 千圓)

昭和一五	昭和一六	昭和一七	昭和一八	昭和一九	計
7970	7120	7180	6290	2000	28760

第六 (國道關門隧道)

(單位 千圓)

昭和一五	昭和一六	昭和一七	昭和一八	計
3180	5300	5300	3740	17520

總計

(單位 千圓)

昭和一一五	昭和一一六	昭和一一七	昭和一一八	昭和一一九	昭和一二〇
二八、二四六三	三六、八一八四	二八、〇二〇五	二四、六八二六	一一、二一八五	八、八五六

昭和一二一	昭和一二二	昭和一二三	昭和一二四	昭和一二五	計
二、七六六	二、四七八	五、一五	一、四七	一、八六	一四三、九三四・三

參考

關門海峽綜合改良計畫第一期所要物資一覽表

第一 (航路及港灣)

物	資	單位	昭	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	計
普通鋼材	噸	一、一〇〇	六七九〇	二六三〇	二、三三〇	二、五三〇	二、三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	三六〇	二、八四七〇
普通鋼鑄鋼	噸	一、〇四六	七二八	一〇四	九四	一〇三	八〇	一〇	一〇	一〇	一〇	二、一七五
特殊鋼材	噸	八	一一	四	二	二	一	一	一	一	一	二八
特殊鋼鑄鋼	噸	一五八	一一二	三二	三〇	二八五	二二五	二五	二五	二五	二五	三、八八
普通鐵	噸	一、〇二五	四九六五	一八〇	一七〇	一七〇	一六〇	一	一	一	一	二、一九九
電氣銅	噸	一二五	一一五	二	二	二	二	一	一	一	一	三二
木材	立米	三三五〇	二七七〇	一、三〇〇	一、二〇〇	一、二二五	一、〇二五	一二五	一二五	一二五	一二五	一、六一二〇
重油	噸	二三	二八	二七	二五	二八八	二三	六	六	六	六	一、六〇八
普通揮發油	噸	二、七六六	二九七	三、三〇七	二、七七	三、一八	二九	五	五	五	五	一、八九五
瀝青炭	噸	二、三七六	二、五〇二	一、六八六	一、〇〇七	一、〇〇七	二、〇〇六	九〇〇	九〇〇	九〇〇	九〇〇	三、九二六

第二ノ一 (航路標識)

物 資	單 位	昭 一 五	一 六	一 七	一 八	一 九	計
普通鋼材	應	1011	31	77	136	93	439
特殊鋼材	"	105	1	1	13	11	55
鉄 鐵	"	96	85	125	271	873	1451
銅	"	305	25	25	485	455	1745
鉛	"	110	100	136	400	110	776
亞鉛	"	336	31	1	150	118	636
錫	"	331	115	66	336	131	1669
アルミニウム	"	0	0	0	0	0	0
水 銀	"	300	0	0	0	0	300
石 炭	"	151	10	10	50	100	411
普通揮發油	軒	5000	0	0	0	0	5000
機 械 油	"	5000	0	0	0	0	5000

第二ノ二 (海底電線)

物	資	單位	昭	一	五	一	六	一	七	一	八	一	九	二	〇	計
普通鋼材	噸		1			1			430		740		1530		1	2700
電氣銅			1			1			36		10		250		1	296
亞鉛			1			1			8		14		31		1	53
錫			1			1			5		1		34		1	39
アンチモン			1						2		1		9		1	11

生	麻	木	子	硝	白
ゴム		材	ク	子	金
噸		立		板	汗
		米		噸	
100	0	216216	1001	0001	0003
100	0	76776	0	0	0
100	0	11	0	0	0
100	0	235235	0	0	0
111	003	2929	0	0	0
019	003	567567	0001	0001	0001

第三 (小倉地先ノ鐵道施設)

鋼	
材	
施	
	昭一五
1	'一六
1	'一七
五〇〇	'一八
五〇〇	'一九
1	'二〇
1,000	計

生	石	紙	麻	鉛
丁				
△	炭			施
"	"	"	"	
1	1	1	1	1
1	1	1	1	1
1	1	〇・六	四・〇	一八・〇
一・四	一五〇・〇	1	八・六	1
1	一五〇・〇	四・四	二〇・六	一一・五
1	三〇〇・〇			
1	〇	1	1	1
一・四	六〇〇・〇	五・〇	三三・二	一三〇・五

第四ノ一 (小倉地先稅關施設)

物	資單位	昭	一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	計
普通鋼鋼材	噸					九六	五六二	一三〇	二九〇	三五〇	一四一五
普通鋼鋼材	噸								〇五	〇五	一
鍛鋼鋼材	噸										
普通銑鐵	噸					六〇	六〇	六〇	一〇七	一〇六	三九三
電氣銅	噸						一	一	四	七	一三
鉛	噸						三八				三八
亞鉛	噸								一		二
木材	立米					一七一九	一七二二	一七一五	一三三五	二八〇	六四六一

第六 (國道關門隧道)

區分	單位	昭和十五年	昭和十六年	昭和十七年	昭和十八年	計
普通鋼材	噸	二、八三〇	四、〇五〇	五、四九〇	二、一三八	一四、五〇八
特殊鋼材	噸	九二	五〇	一四一	一	二八三
普通銑鐵	噸	一五四	三〇	一六八	一二	三六四
電氣銅	噸	一〇三	一五	一八三	九	三一〇
鉛	噸	四二	一〇	四三	四	九
錫	噸	七	六	三	二	一八
瀝青炭	噸	九〇	一五〇	一四五	九〇	四七五
重油	噸	二〇	三二	三八	一五	一〇五
普通揮發油	噸	一八	三〇	二四	一三	八五
木材	立米	二、七〇〇	四、五〇〇	四、一〇〇	一、七〇〇	一三、〇〇〇
生ゴム	噸	二	三	三	一	九

第一期工事物資一覽表

物資	單位	昭一五	昭一六	昭一七	昭一八	昭一九	昭二〇	昭二一	昭二二	昭二三	昭二四	昭二五	計
普通鋼材	吨	二二九九五	一六四〇〇	八七七二	五三九八	三三三八	二四七七	一四三七五	一三六四五	六一七	八六	一五一	六一九二六
特殊鋼材	吨	一〇一〇五	六二	一四七	三三〇	二二〇	一						三二六・五五
普通鋼鑄鋼	吨	一〇四六	七二八	一〇四	九四	一〇三	八〇	一〇	一〇				二・一七五
特殊鋼鑄鋼	吨	一五八	一一二	三二	三〇	二八五	二二五	二五	二五				三八八
普通號鉄	吨	四〇六三一	一五四一五	六五〇	五三九二	三三七三	二二〇	三三五	四一四	三八	三五	三八	八・一八三・一
電氣銅	吨	一一五五	二六五	一八八・六	一一	二八	三	四	八	一	一	二	三八九六
銅	吨	一六七〇五	一一五	二五	四八五	四五五							一九〇・四五
亜鉛	吨	三三六	〇三	二八	一八一	四三八							一五・六五
鉛	吨	二〇四・三三	五三〇・一	六三三六	四〇四	一五〇・六二		六	六	六			四九二・二六
錫	吨	七三三	六二五	四一〇	二三六	三五三							二・三五六
アルミニウム	吨					〇・〇〇六	〇・〇一七						〇・〇三三
アンチモン	吨					〇・九							一・一
水銀	kg	〇・〇三											〇・〇三
白金	kg	〇・〇〇二											〇・〇〇二
生ゴム	吨	一五・〇一	五〇・一	三〇・一	二四	〇・三							二五・五九
瀝青炭	吨	三三・八六	五〇・三六六	八二・七四五	七八・九〇	七二・〇〇〇	六九・〇〇〇	九・〇〇〇	九・〇〇〇				三九三・二六七
石炭	吨	一一・五	一〇	一〇	一九〇	二五〇	三〇〇						七七一・五
木炭	立米	一八・〇三四	一三・一五四	五・四一一	四八・五四	二九・六六	三三・〇	四・七〇	二六・二五	二・一八三	八三	一四二	五五・八六二
千切	kg	一〇〇一											〇・〇〇一
紙	吨			〇・六		四・四							五
麻	kg					八・六	二〇・六三						三三・三三
硝子板	kg	〇・一一											〇・一一一
綿	kg	二											三
重油	升	四三	六〇	六五	四〇	二八・八	三三	六	六				二七一・八
機油	kg	〇・〇〇五											〇・〇〇五
普通揮發油	kg	四五・六二五	五九・七	五七・七	四〇・七	三一・八	二九・〇	五	五				二七四・五

計畫スレバ大體左ノ結果ヲ得

筒處	早瀬瀬戸	大瀬戸	小倉沖	若松計畫防波堤附近	
西流	八〇	六〇	一八	一〇	現
東流	八〇	五五	二〇	〇八	在
西流	七五	五六	二五	三〇	計畫完成後
東流	七五	五二	二三	二五	單位湮

尙若松沖防波堤ナキ場合ニ於テハ他ノ筒處ニ於ケル潮流ノ速度ハ幾分右ノ數字ヨリ大ナルモ其程度ハ微小ナリ。

參考

關門海峽綜合改良計畫ト其潮流ニ對スル影響

一般ニ水路ニ於ケル水流ノ速度ハ其斷面積ト水位差トニ正比例シ距離ニ反比例ス。海峽ニ於テ速度ノ大ナル早鞆瀬戸、大瀬戸間ヲ對照トシテ考フルニ其等狹窄部ヨリ外方ニ於テ流水斷面ヲ縮少スレバ流量ノ減少ト距離ノ延長ヲ來シ海峽兩端ノ水位差ハ一定ナルガ故ニ平均速度ハ減少ス。但シ斷面ヲ縮少セル箇處ニ於テハ局部的ニ速度ヲ增加スベシ。

航路ノ浚渫ハ斷面ノ増加ヲ來シ潮流ノ速度ヲ增加スル傾向アルモ本計畫ノ浚渫ハ早鞆瀬戸、大瀬戸狹窄部ニ於ケル流水斷面ニ殆ド變化ナキヲ以テ其影響ハ微小ナリ。

田ノ浦地先埋立、防波堤等ノ築設モ同様ノ理由ニヨリ殆ド影響ナシ。

小倉地先埋立及若松沖防波堤ノ築造ハ潮流ニ相當ノ影響アリ。春秋大潮時最大速度ニツキ計畫完成後ニ於ケル潮流ノ變化ヲ理論的ニ

參考

關門海峽綜合改良計畫

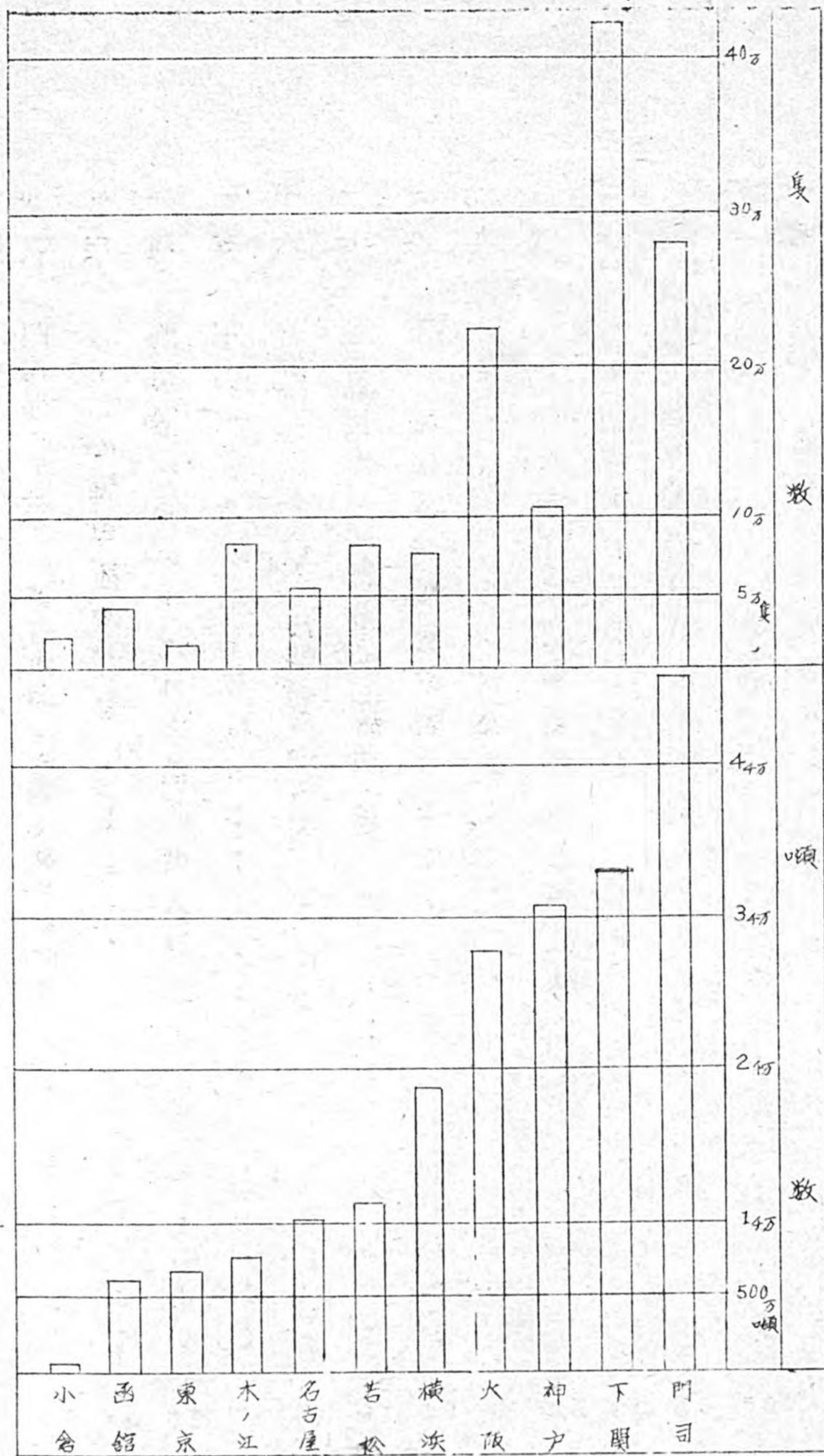
參考資料（圖表）

目次

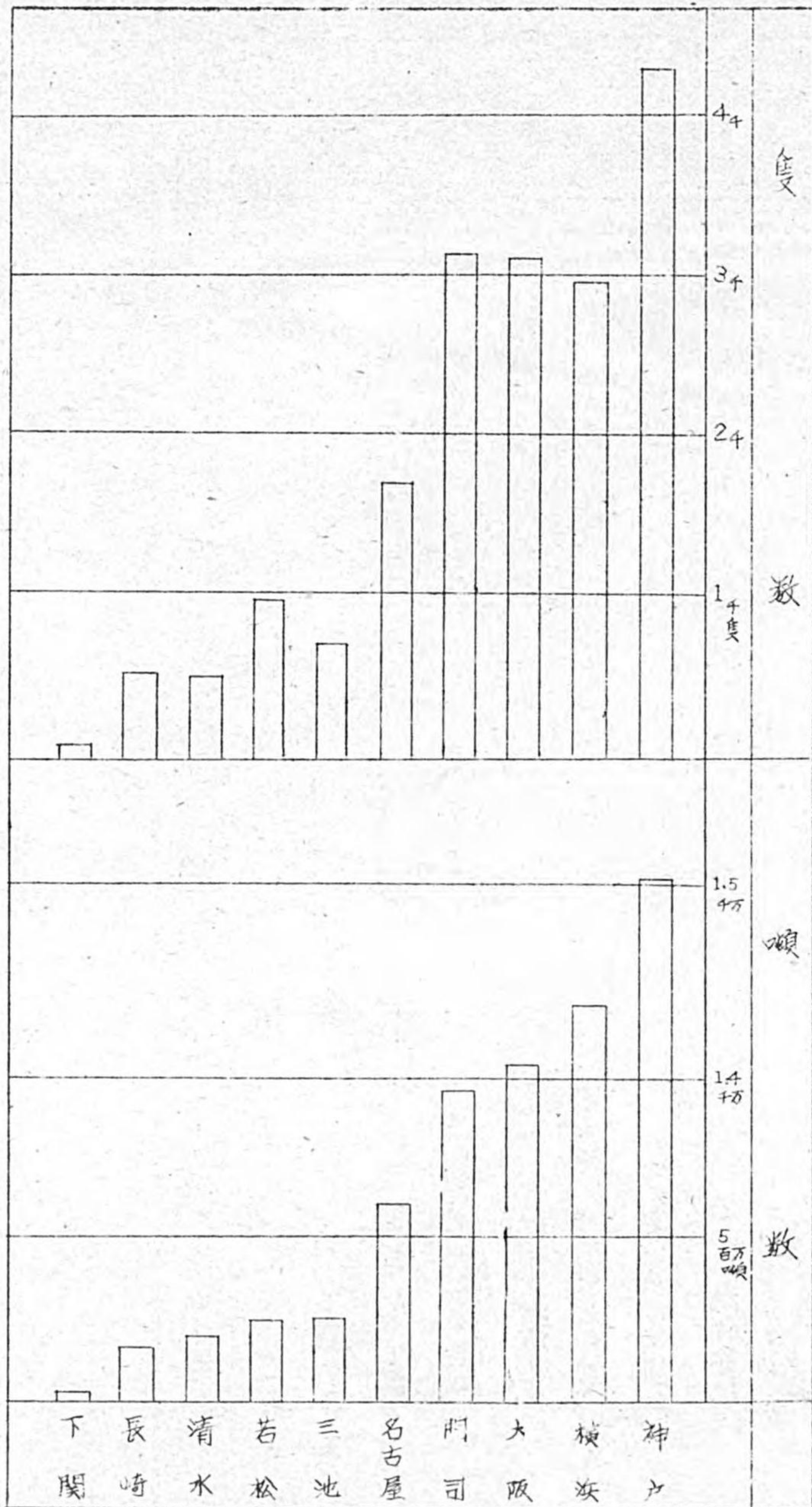
一	本邦主要港入港船舶比較	二
1	內外航共合計	1
2	外國貿易船	2
二	本邦主要港內外貿易噸量比較	3
三	本邦主要港內國貿易噸量比較	4
四	本邦主要外國貿易噸量比較	5
五	門司港出入船舶噸數表	6
六	隻數表	7
七	貨物出入調	8
八	地方別輸出入額表	9
九	輸出貨物積地別	11
一〇	輸入貨物揚地別噸量調	12
一一	門司港仲繼貿易額表	13

一三	門司港ニテ船卸シ管内他港ニテ輸入シタル貨物	14
一四	海難事故統計表	15
一五	門司港ニ於ケル港外在泊船最大數調表	16
一六	下關海峽通峽船舶隻數表	17
一七	若松港積出石炭早柄海峽通過噸數調	18
一八	若松港積出石炭積載早柄海峽通過隻數調	19
一九	下關港出入船舶隻數表	20
二〇	噸數表	21
二一	入港外國貿易船隻數及噸數表	22
二二	貨物出入表	23
二三	小倉港出入船舶噸數表	24
二四	隻數表	25
二五	港內國貿易額表	26
	ニ於ケル最近三ヶ年間ノ外國貿易船出入狀況	27

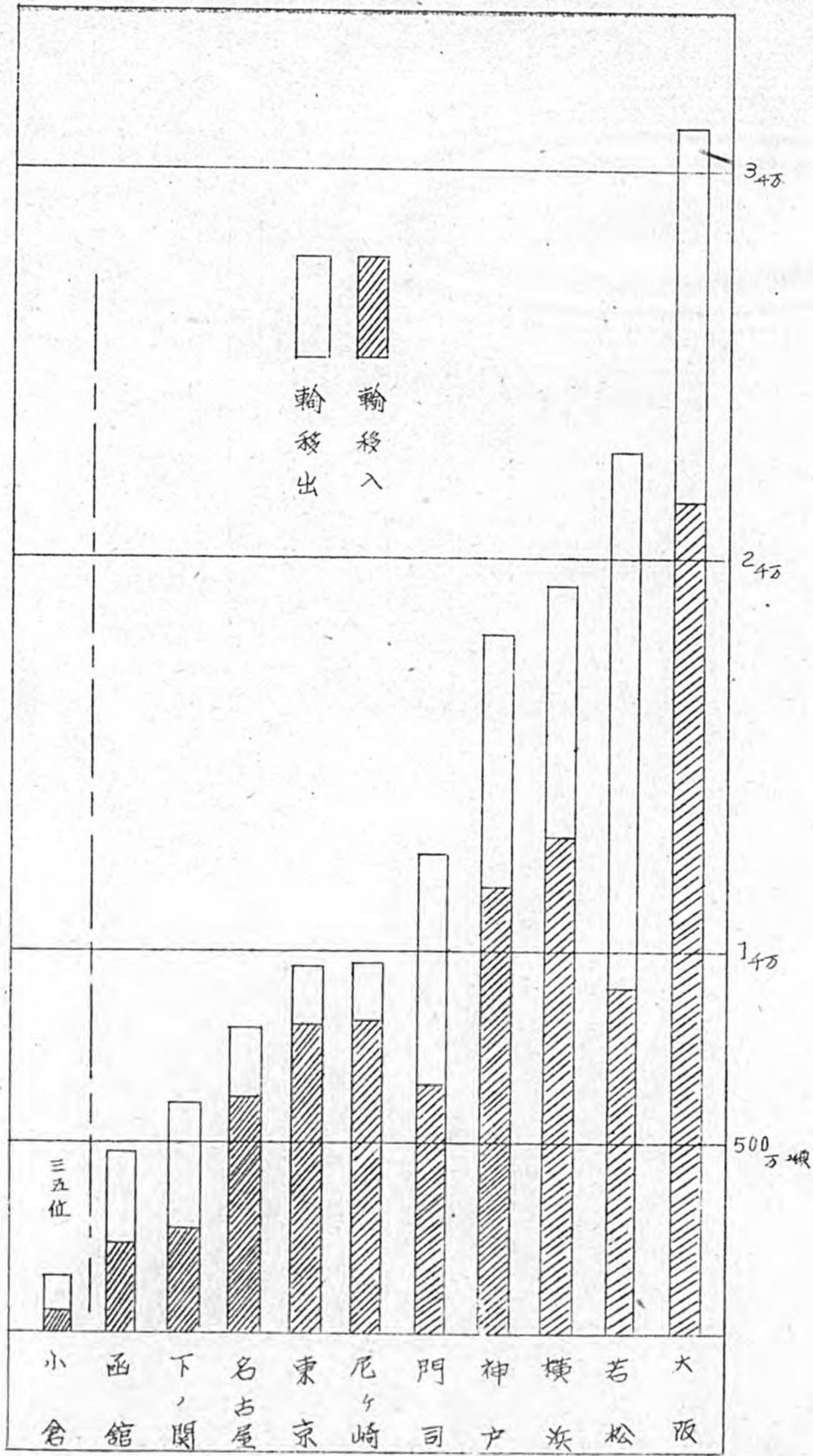
一、本邦主要港入港船舶比較
 人内外航共合計
 (昭和十二年)



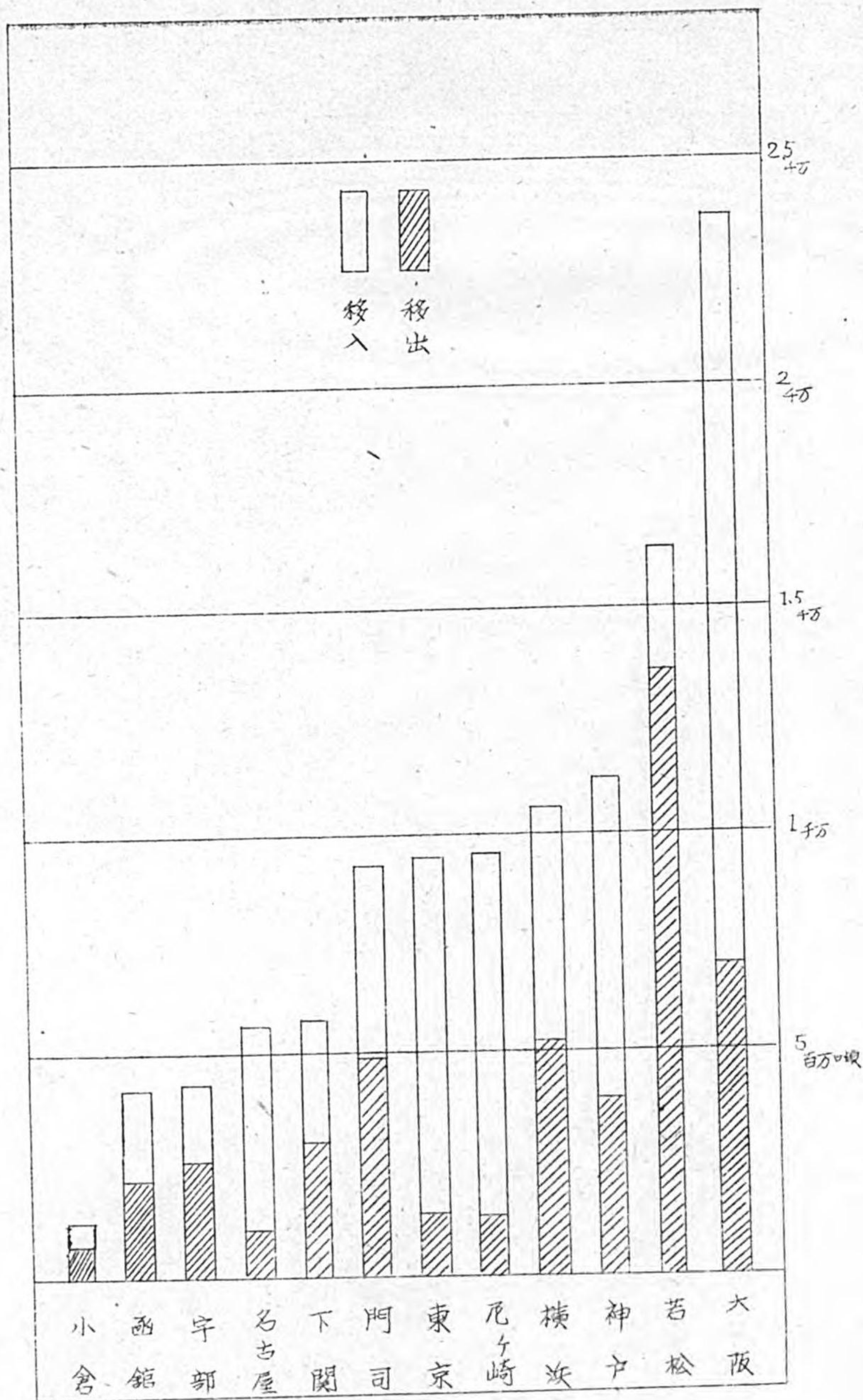
2. 外國貿易船



二 本邦主要港内外貿易噸量比較表 (昭和十二年)

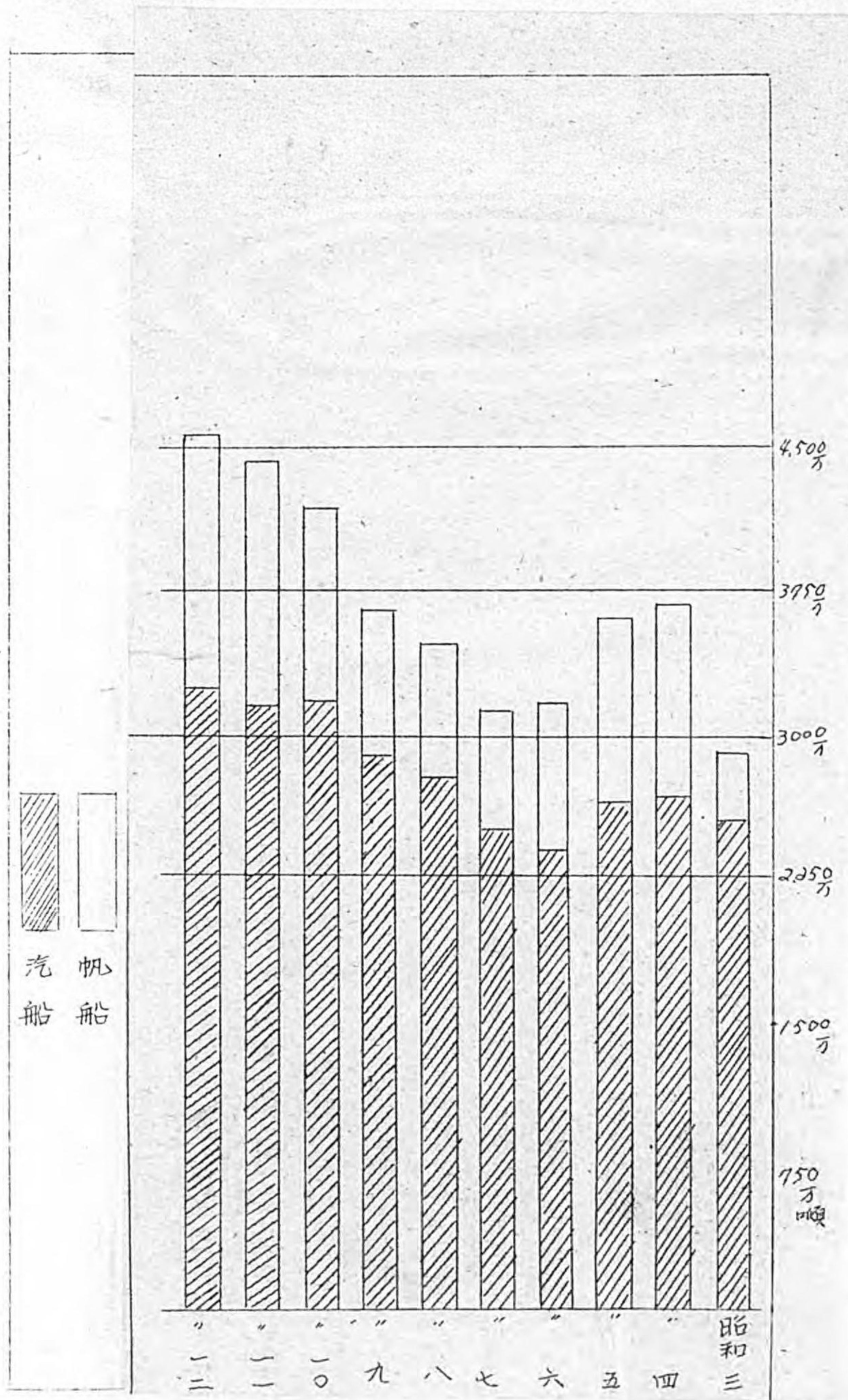


三本邦主要港内國貿易噸量比較表（昭和十二年）

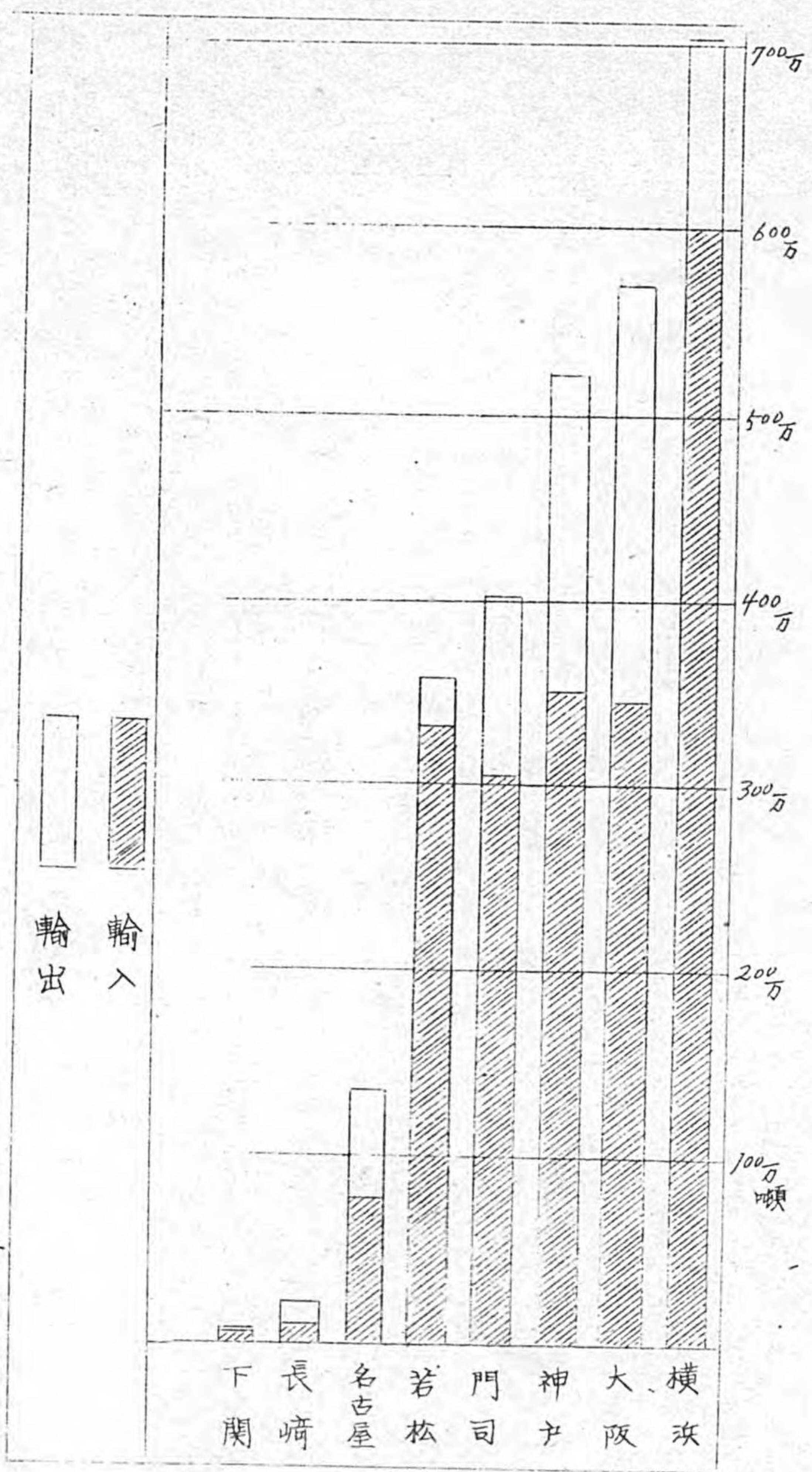


五門司港出入船舶噸數表

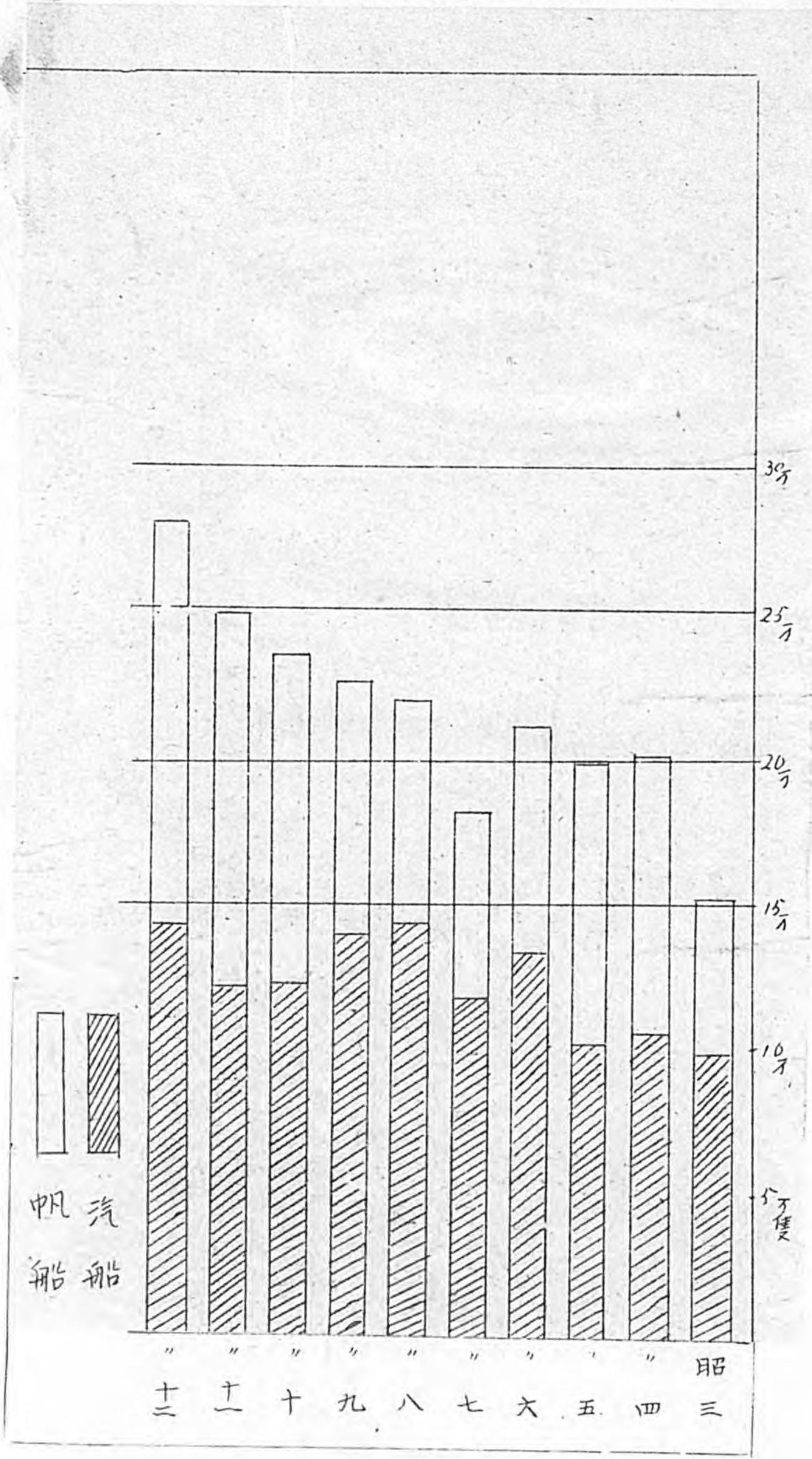
(單位千噸)



日本邦主要港外國貿易噸量比較表（昭和十三年）



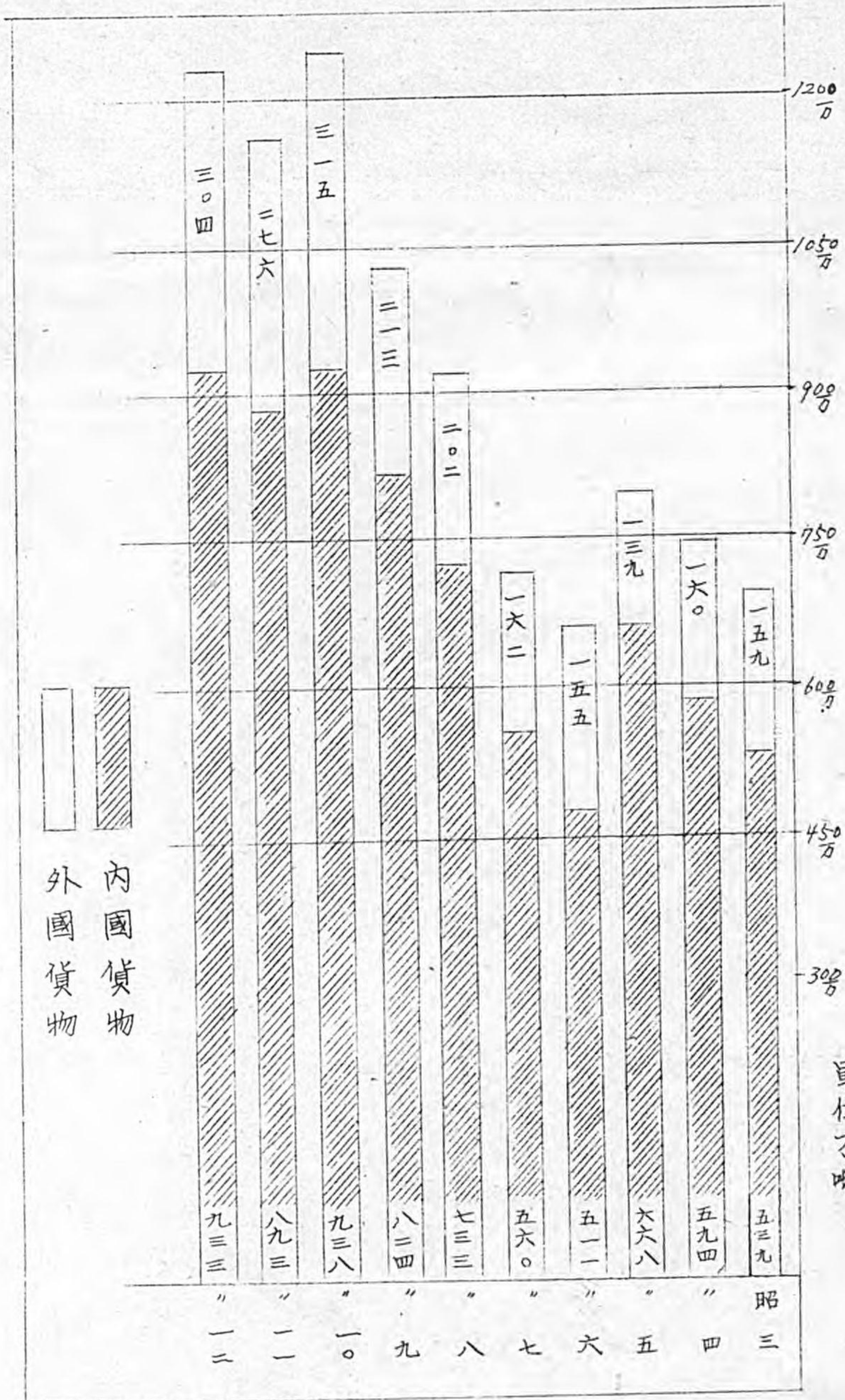
六門司港出入船舶隻數



七

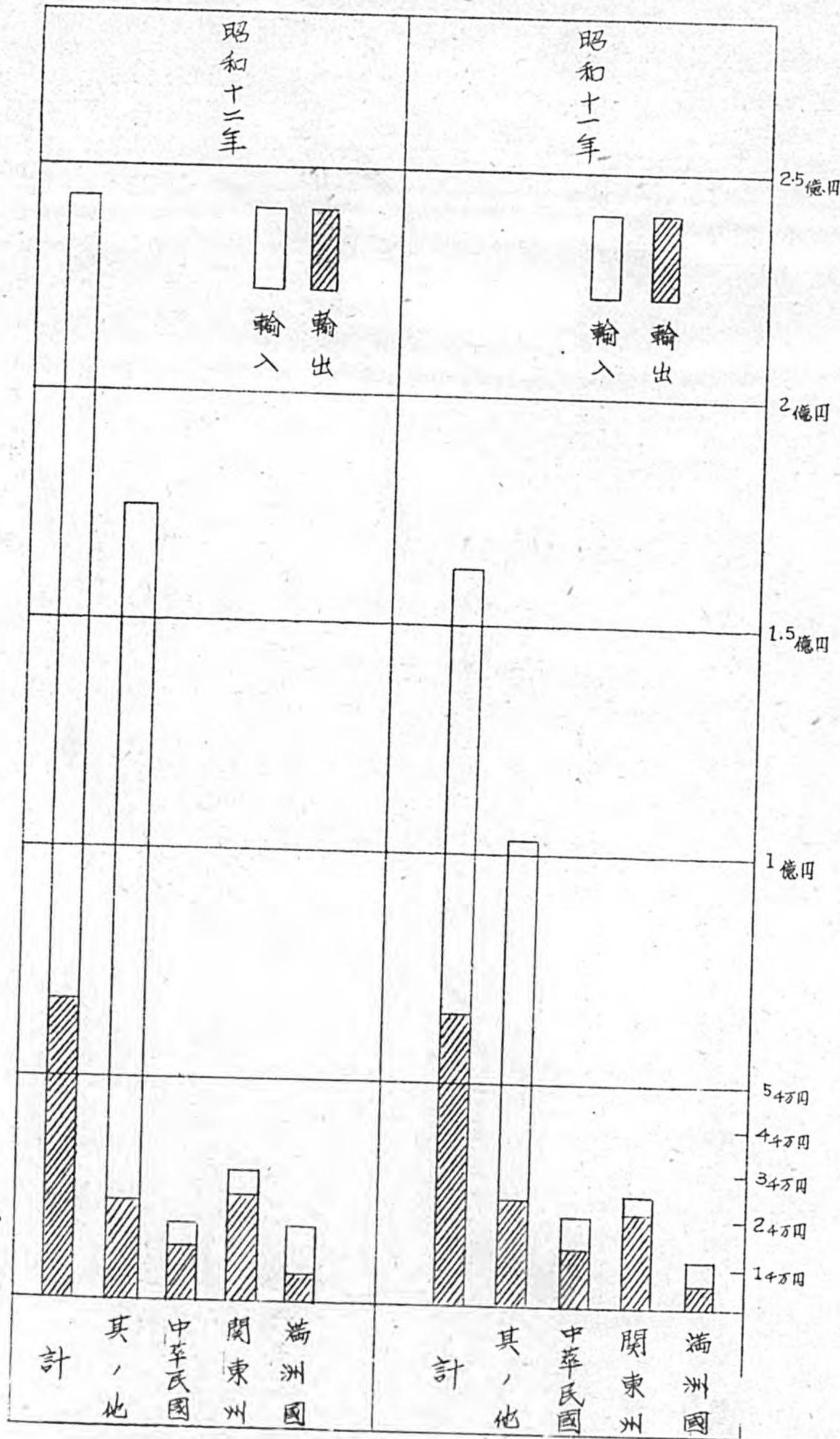
帆船 汽船

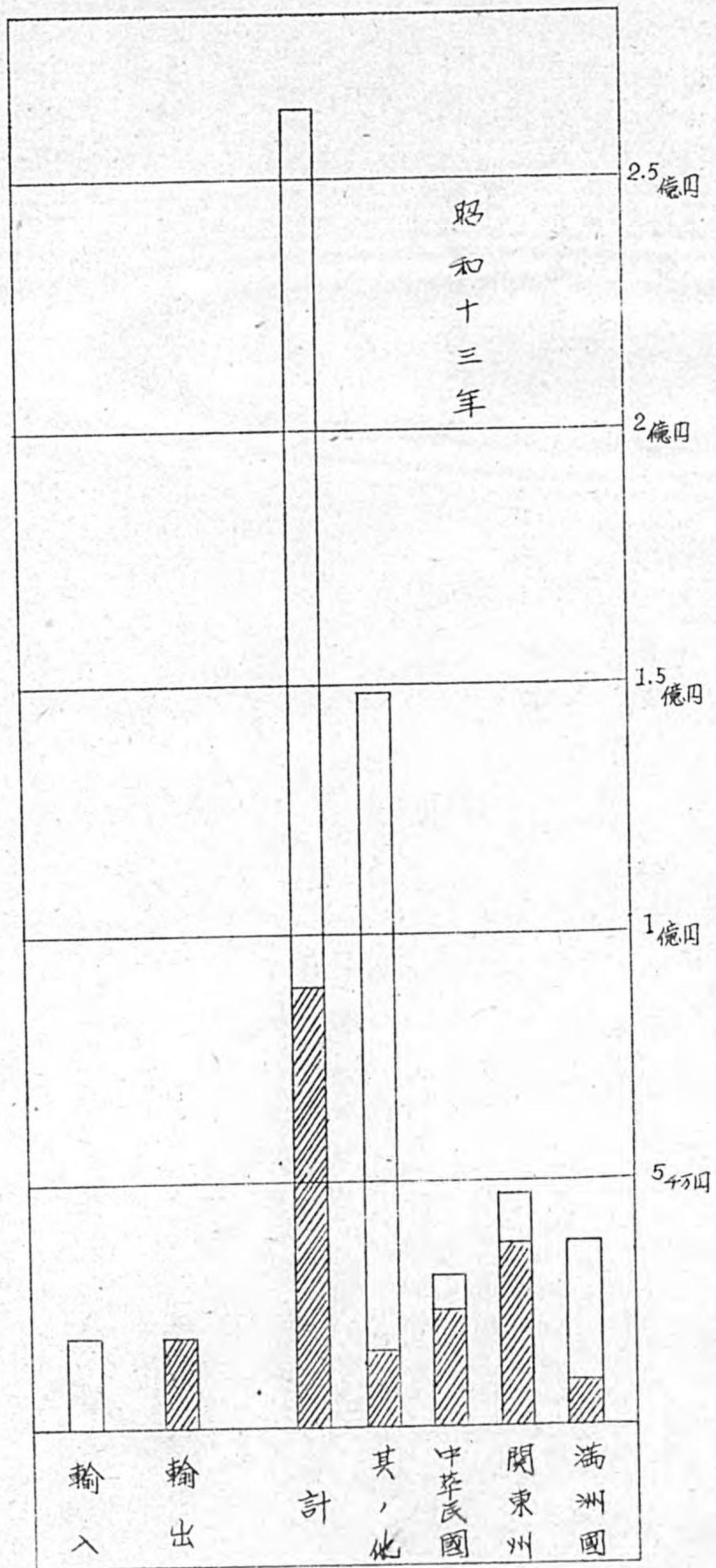
七門司港貨物出入調



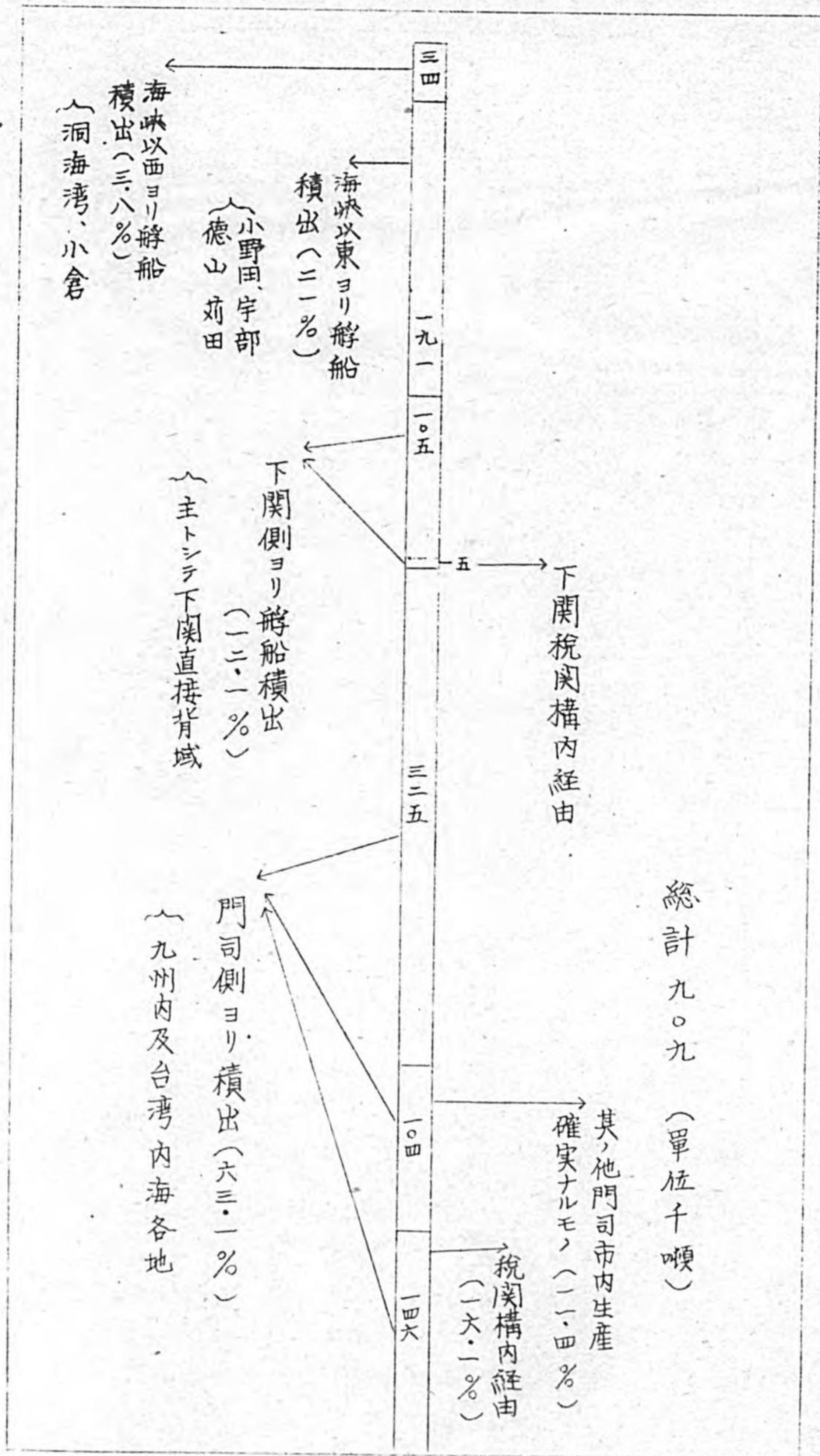
單位萬噸

八門司港地方別輸出入額表

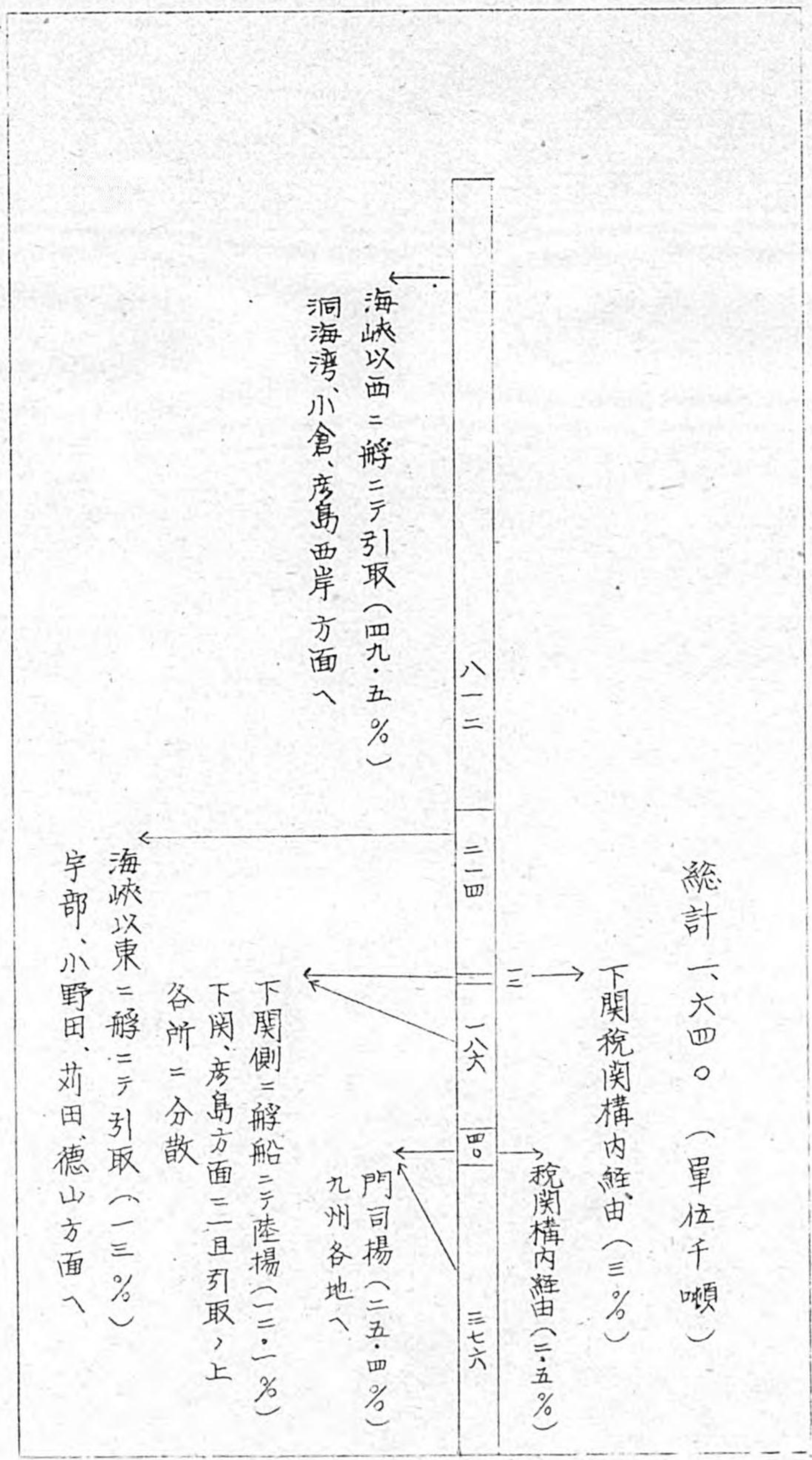




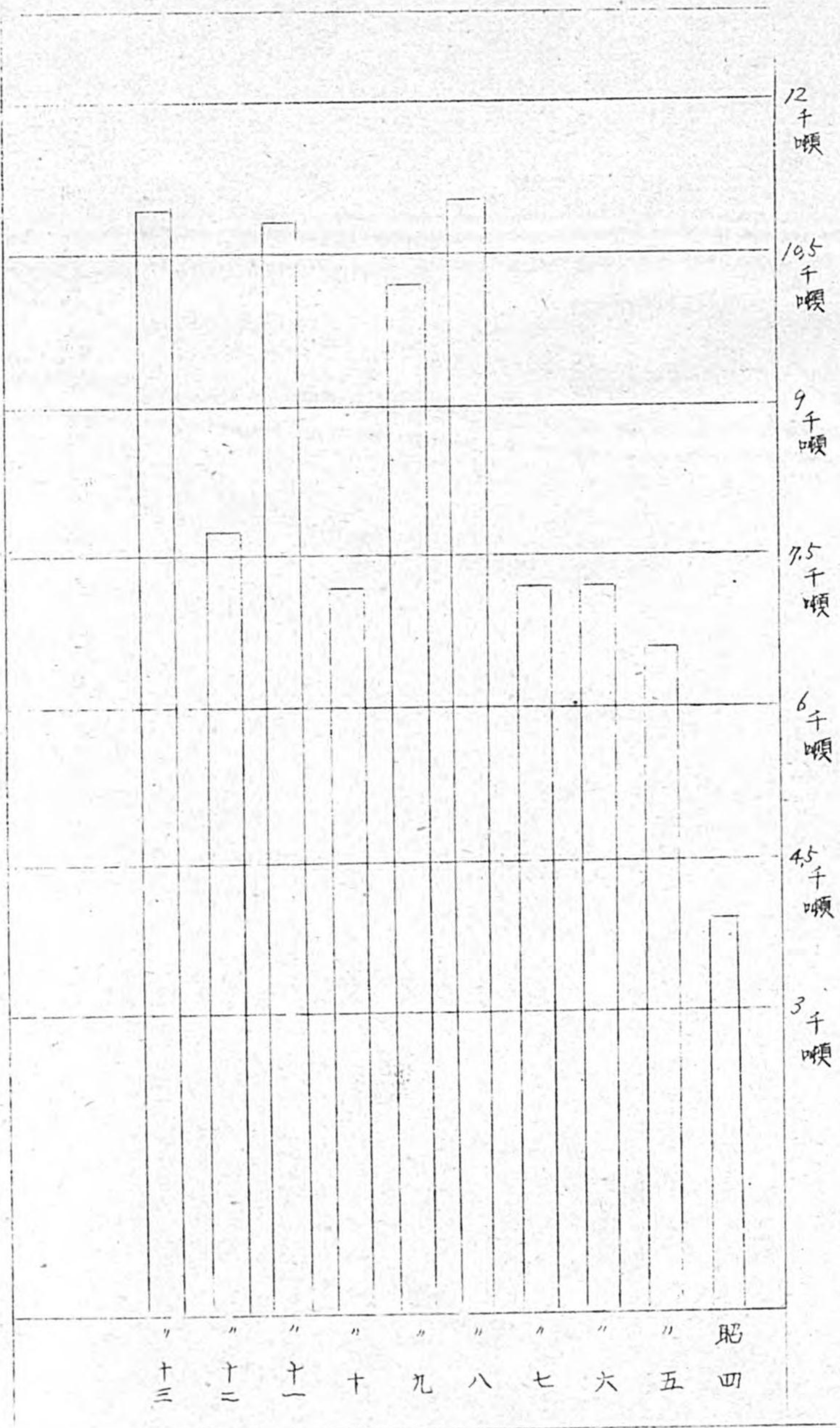
九門司港輸出貨物積地別（昭和十三年）



一〇 門司港輸入貨物揚地別噸量調 (昭和十三年)

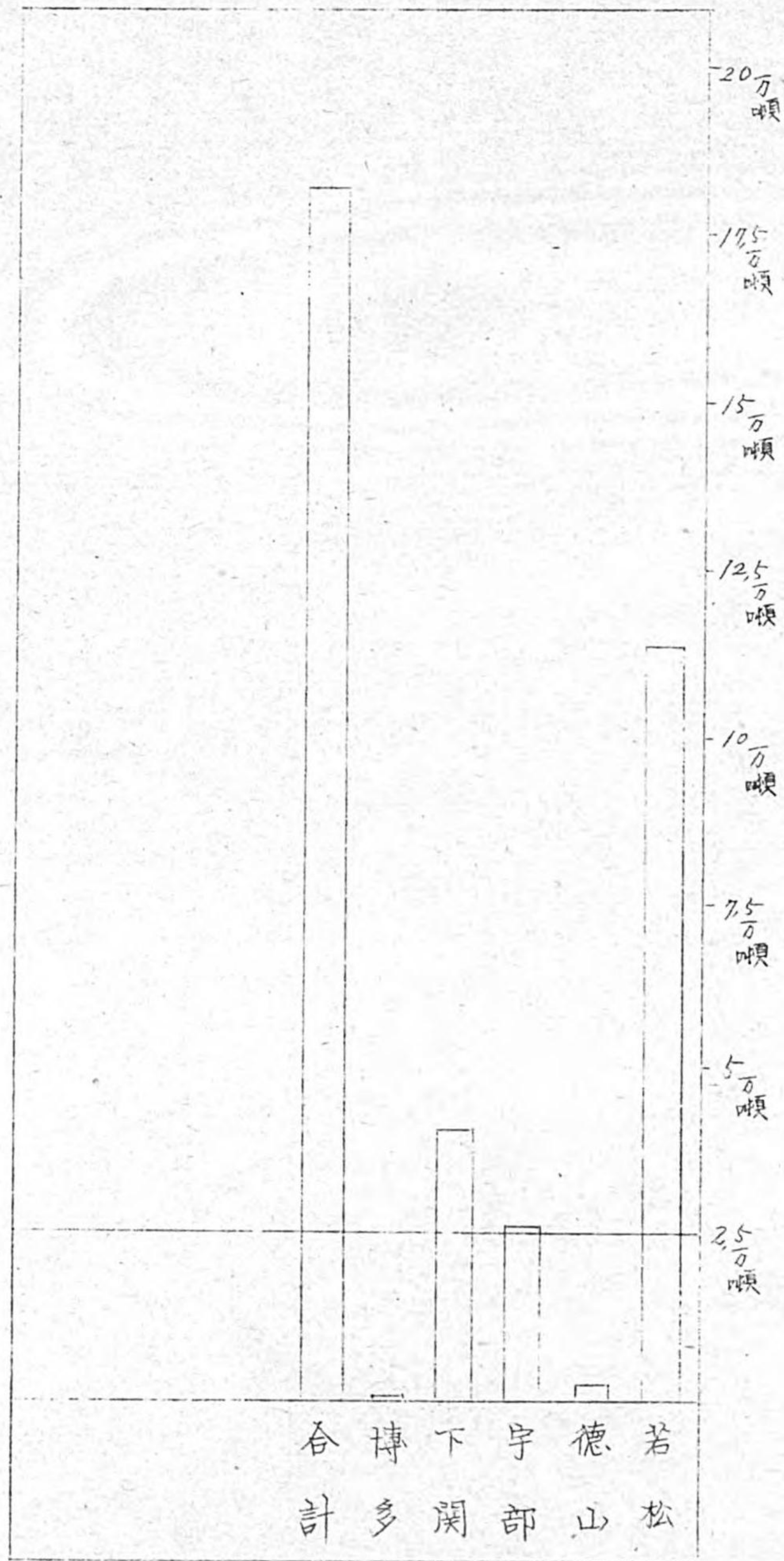


一一門司港沖繼貿易額表

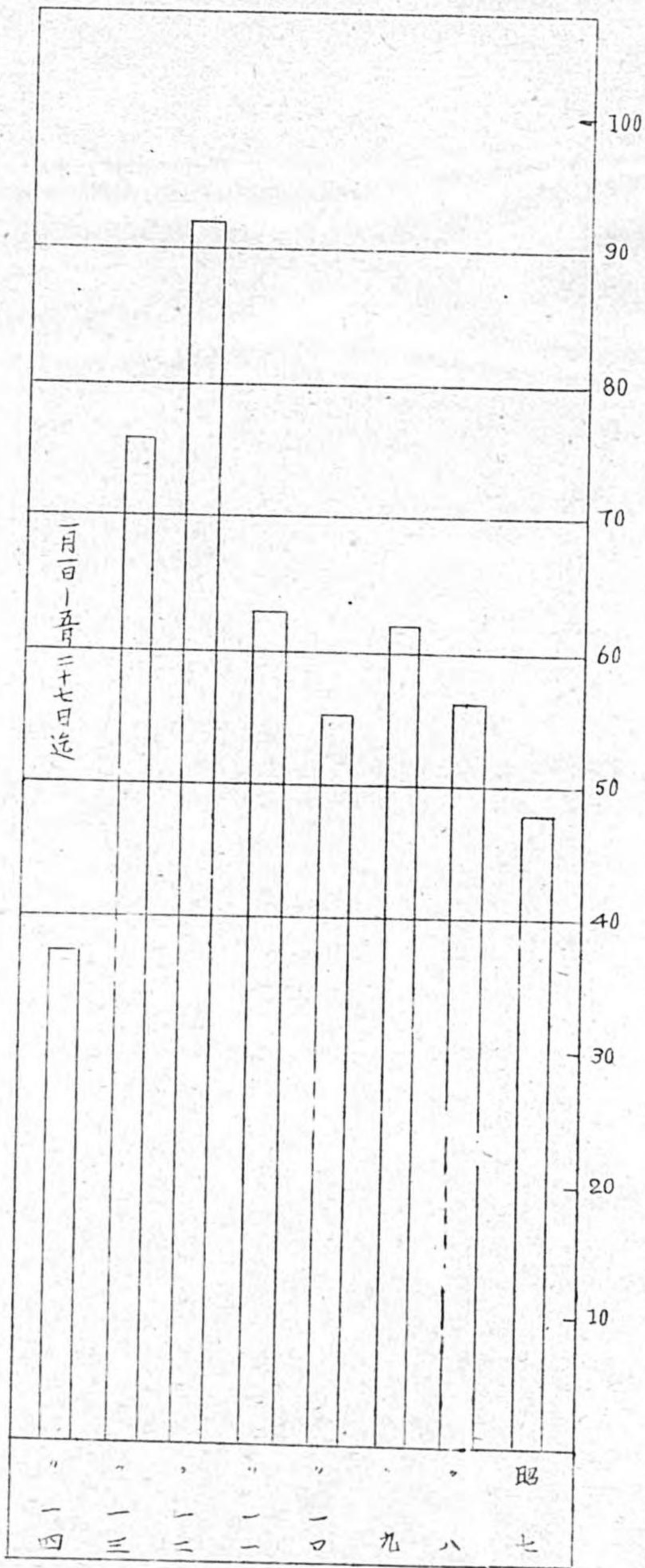


三

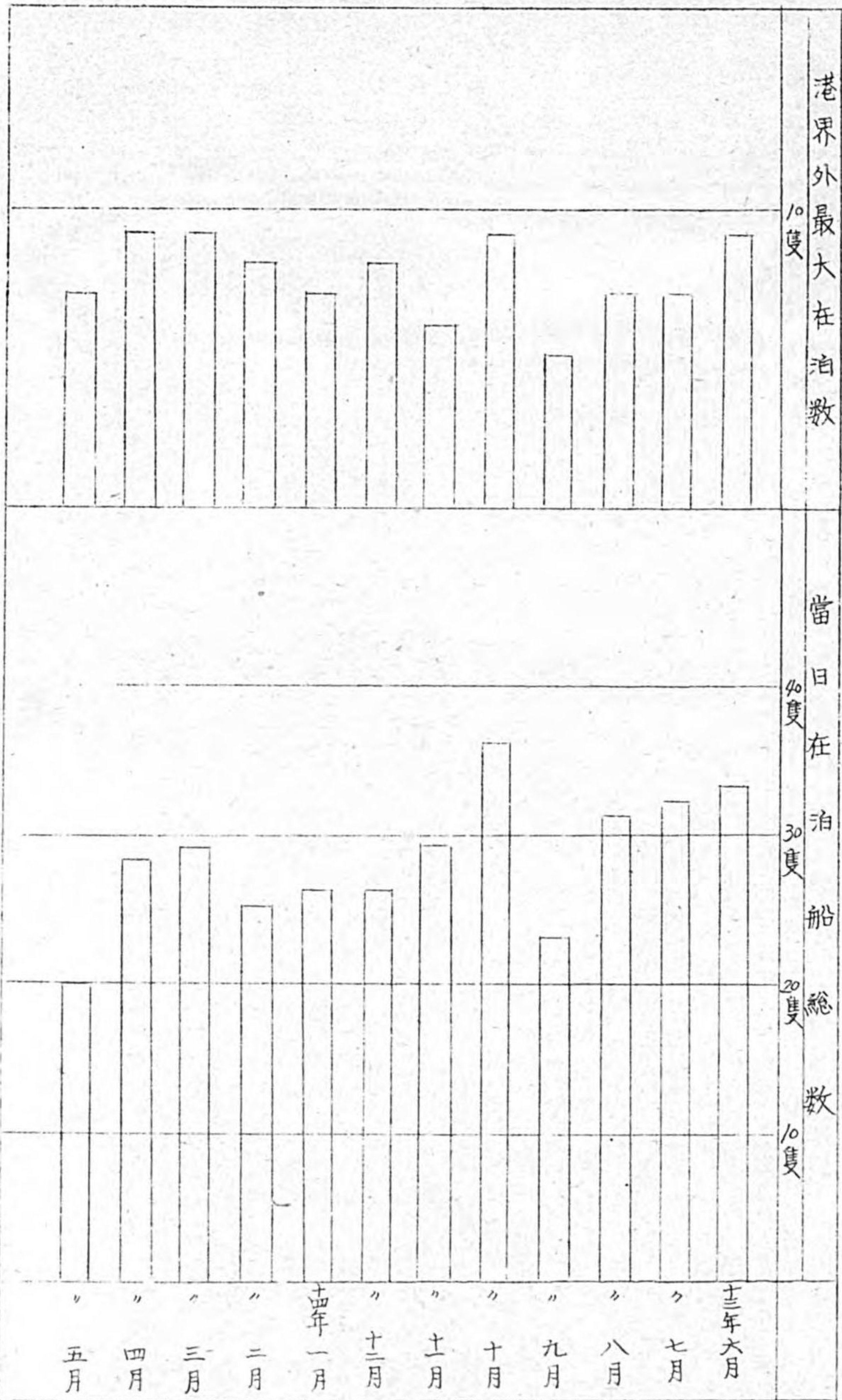
一二門司港ニテ船卸シ管内他港ニテ輸入シタル貨物（昭和十三年）



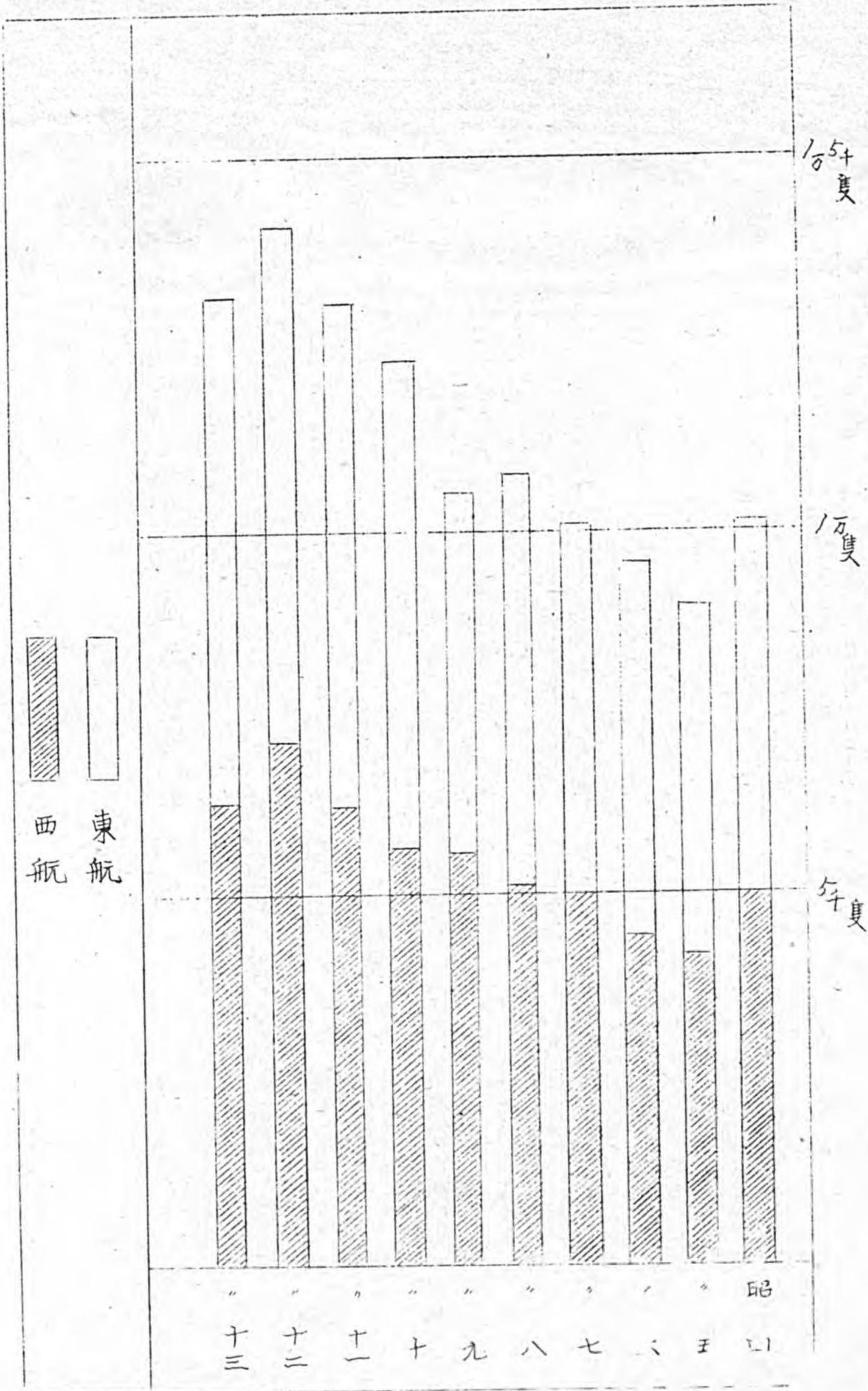
一三門司港海灘事故統計表



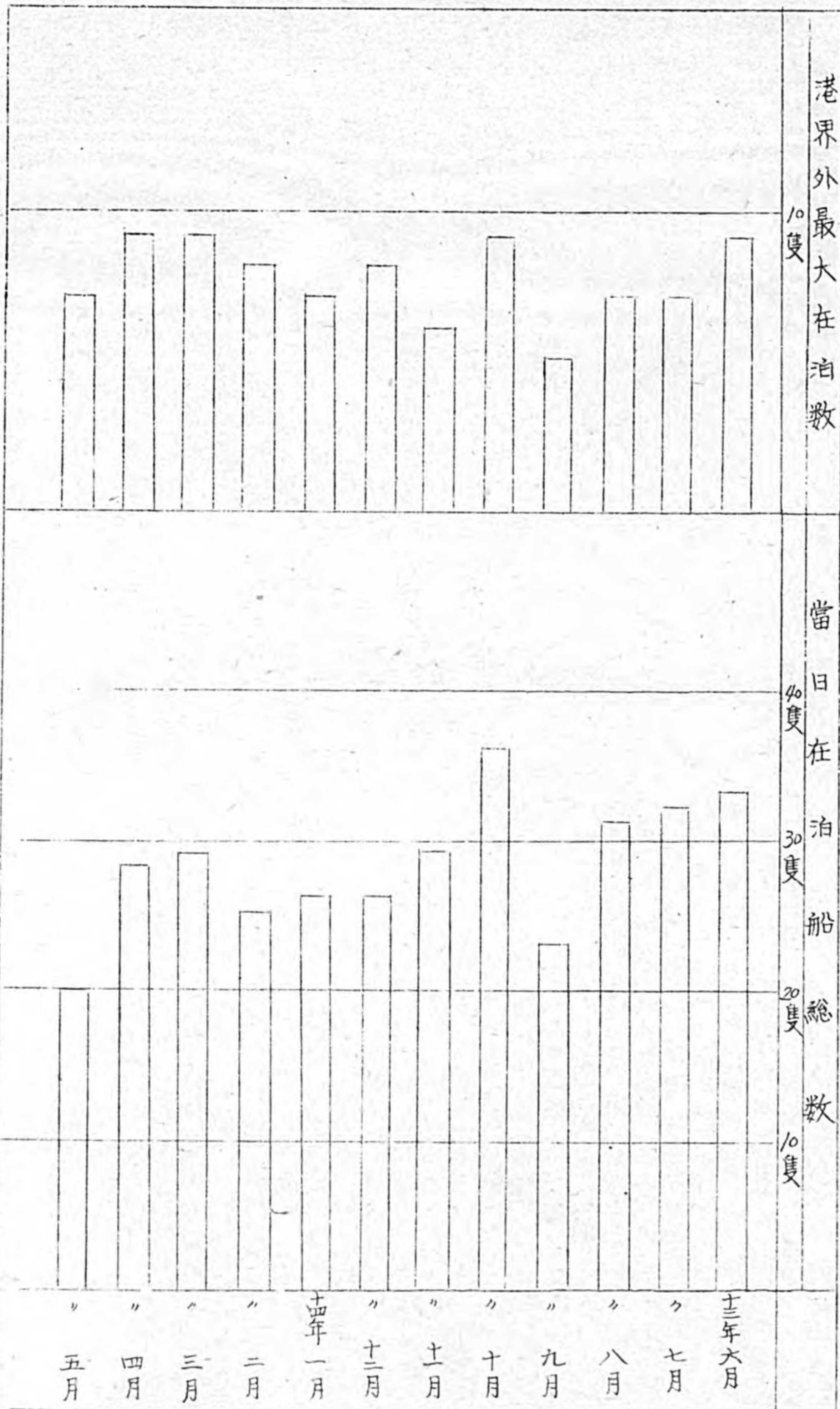
一四門司港ニ於ケル港外在泊船数最大数調表



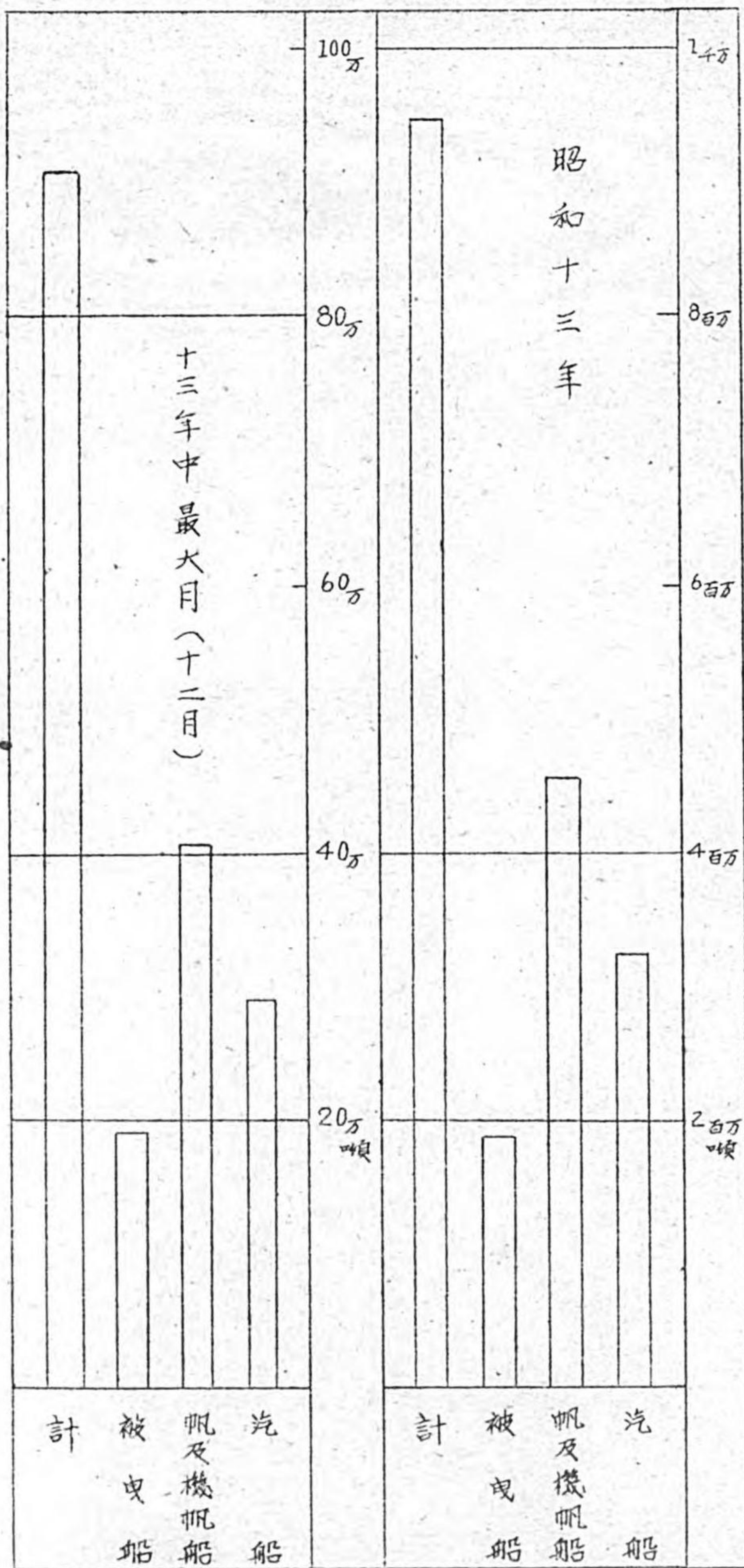
一五下関海峡通峽船舶隻数表(帆船を除く)



一四門司港ニ於ケル港外在泊船数最大数調表

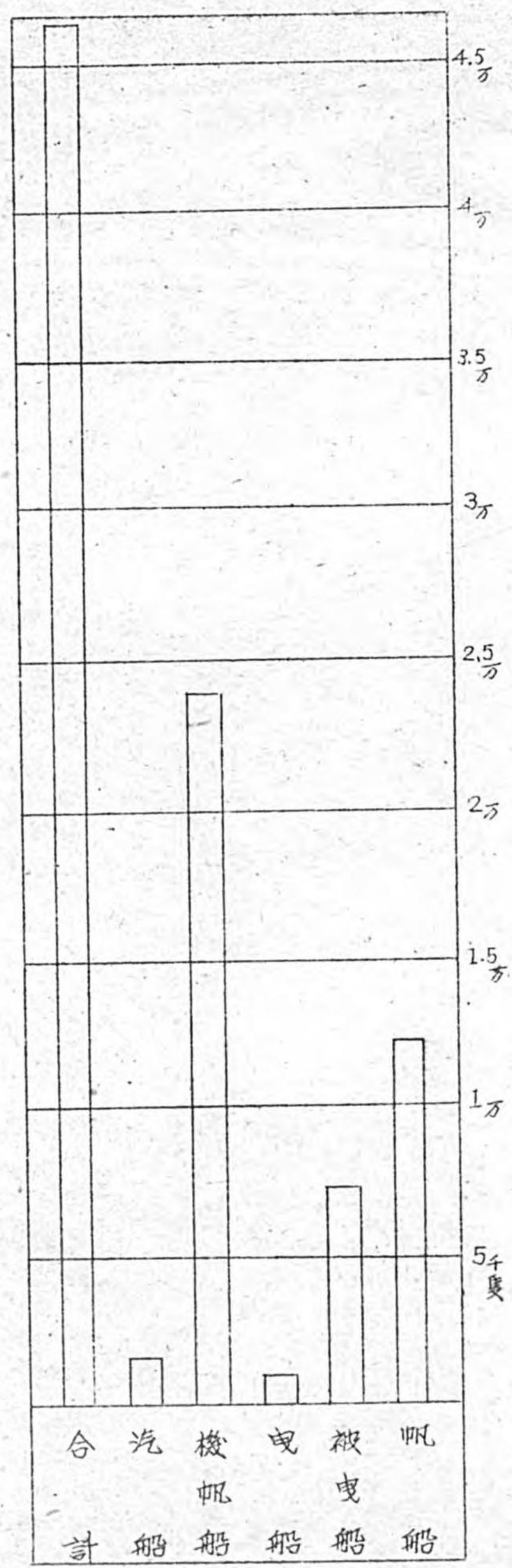


一六若松港積出石炭早鞆海峡通過噸數調表



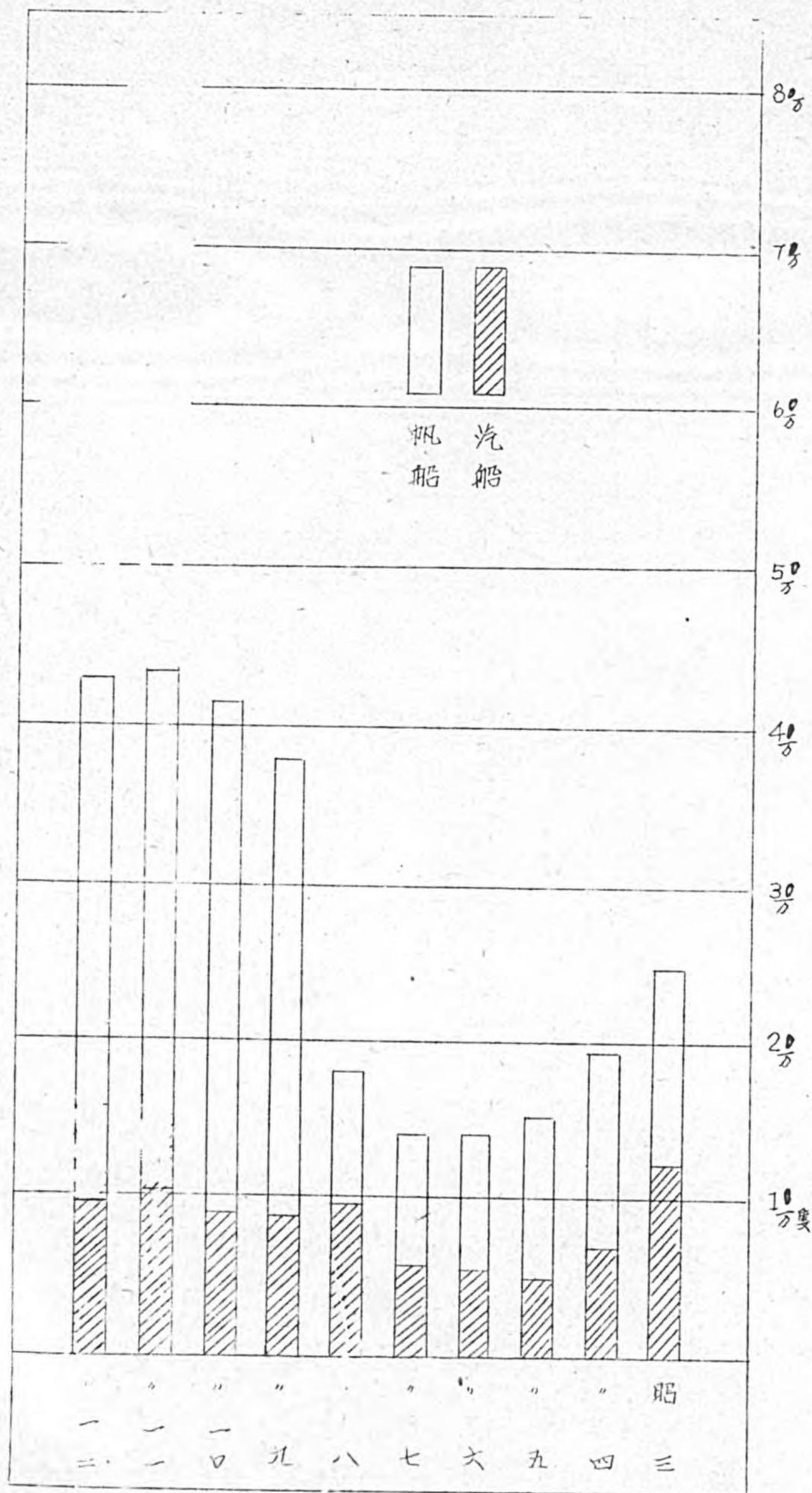
一七 若松港積出石炭積載船早蕪海峡通過隻數調

東行（石炭積載ノ上）



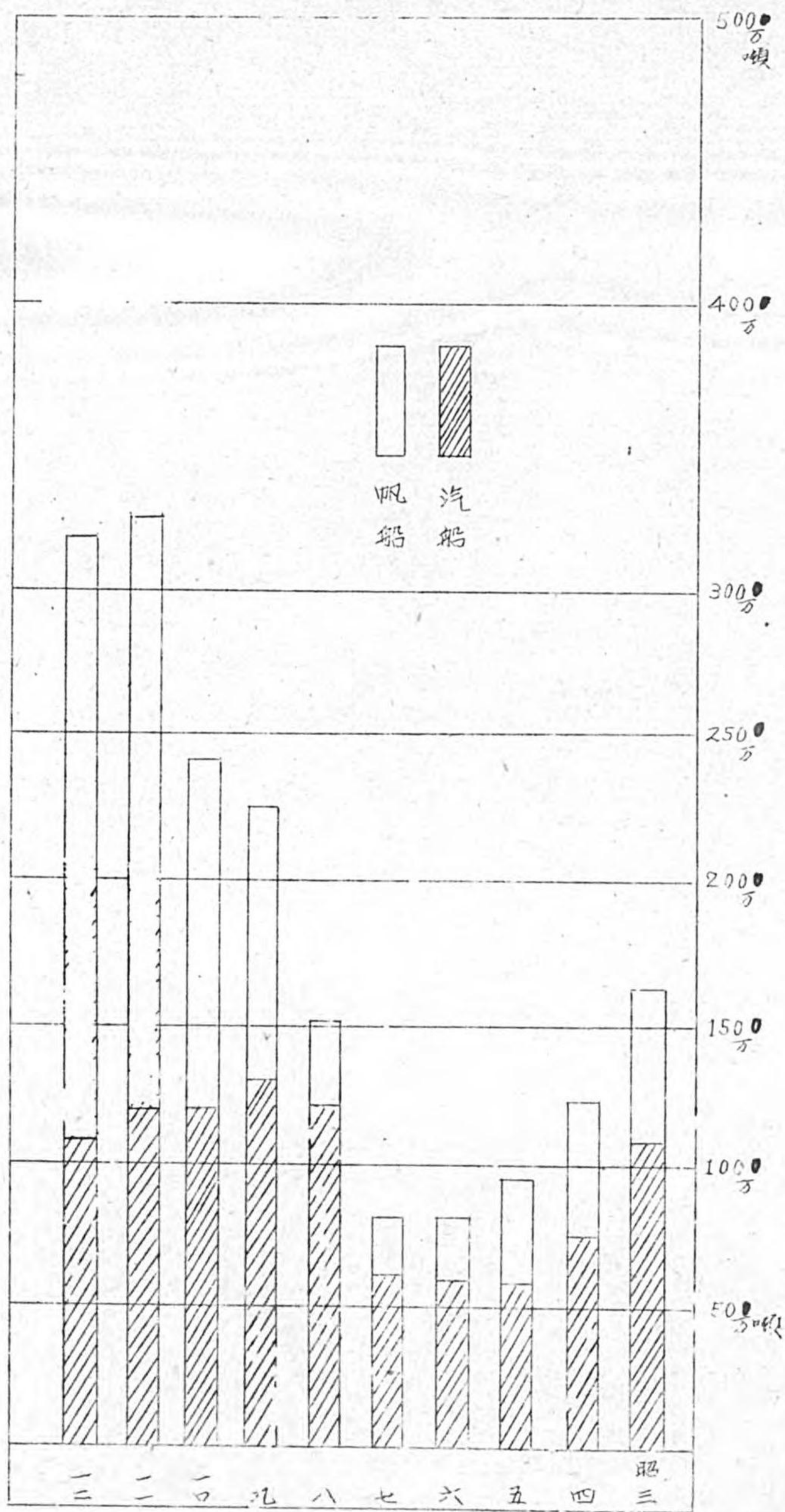
備考 西行ニ同數ノ隻數アリ。

一八下関港出入船舶隻数表

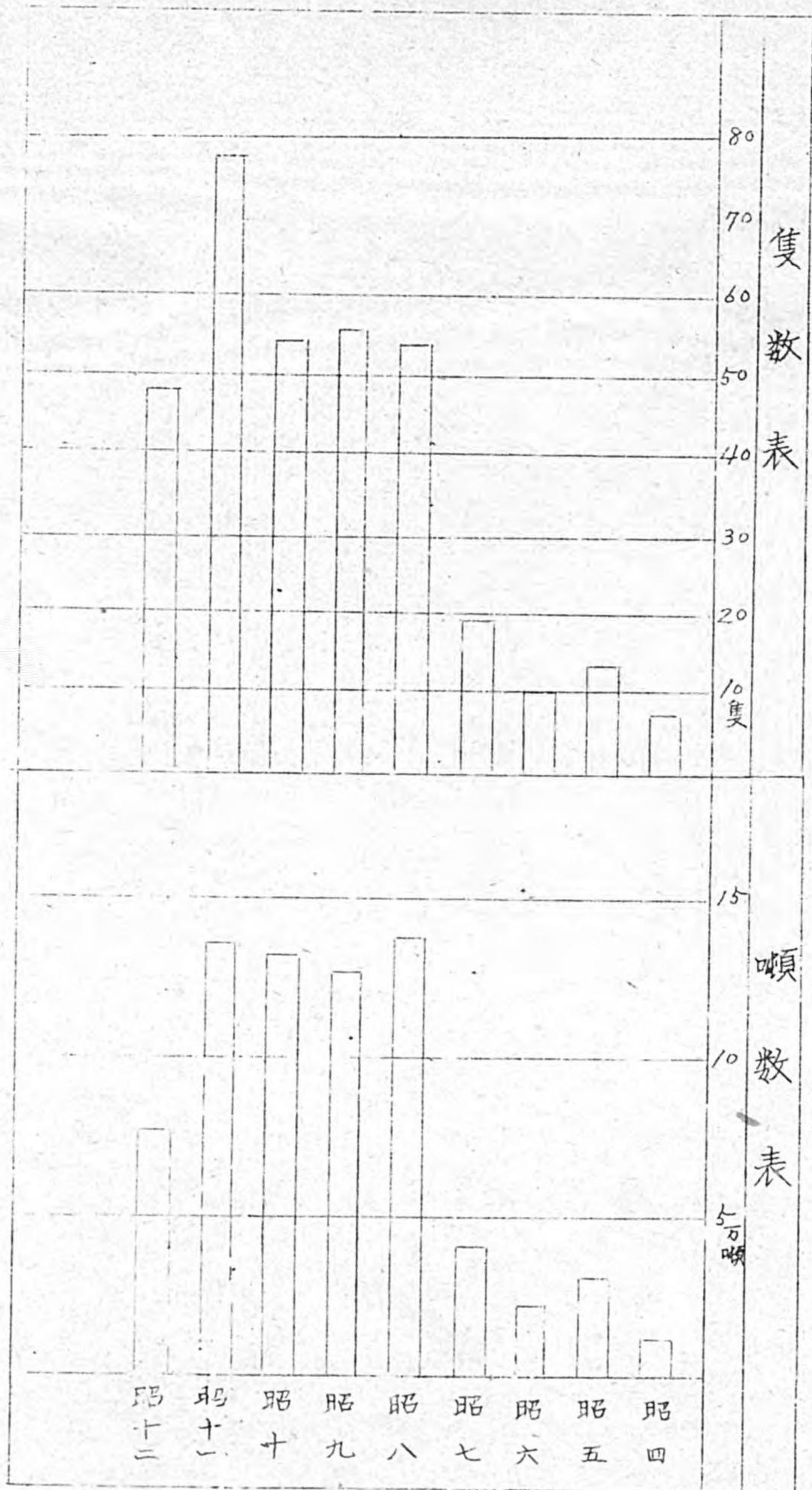


511

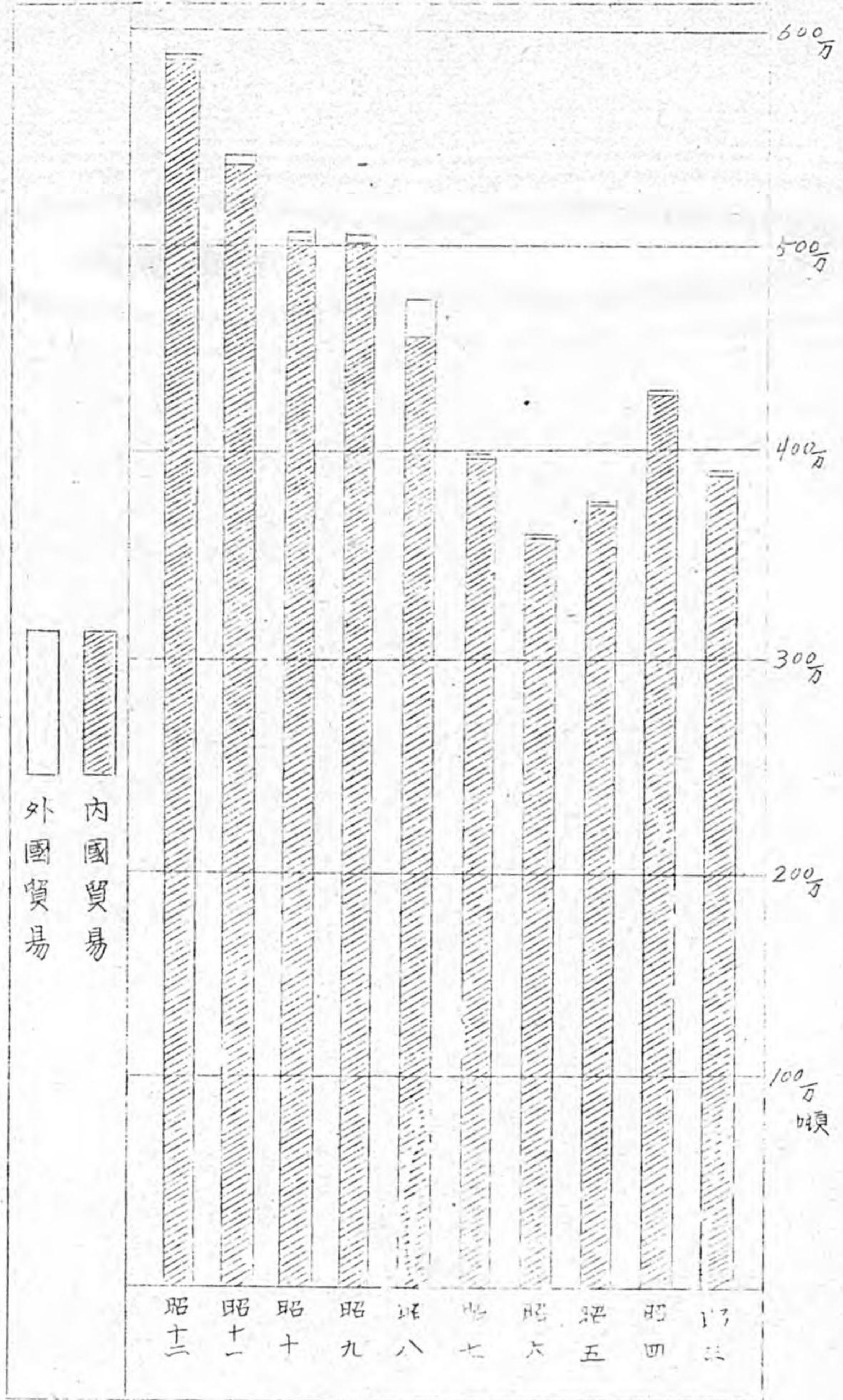
一九下関港出入船舶噸數表



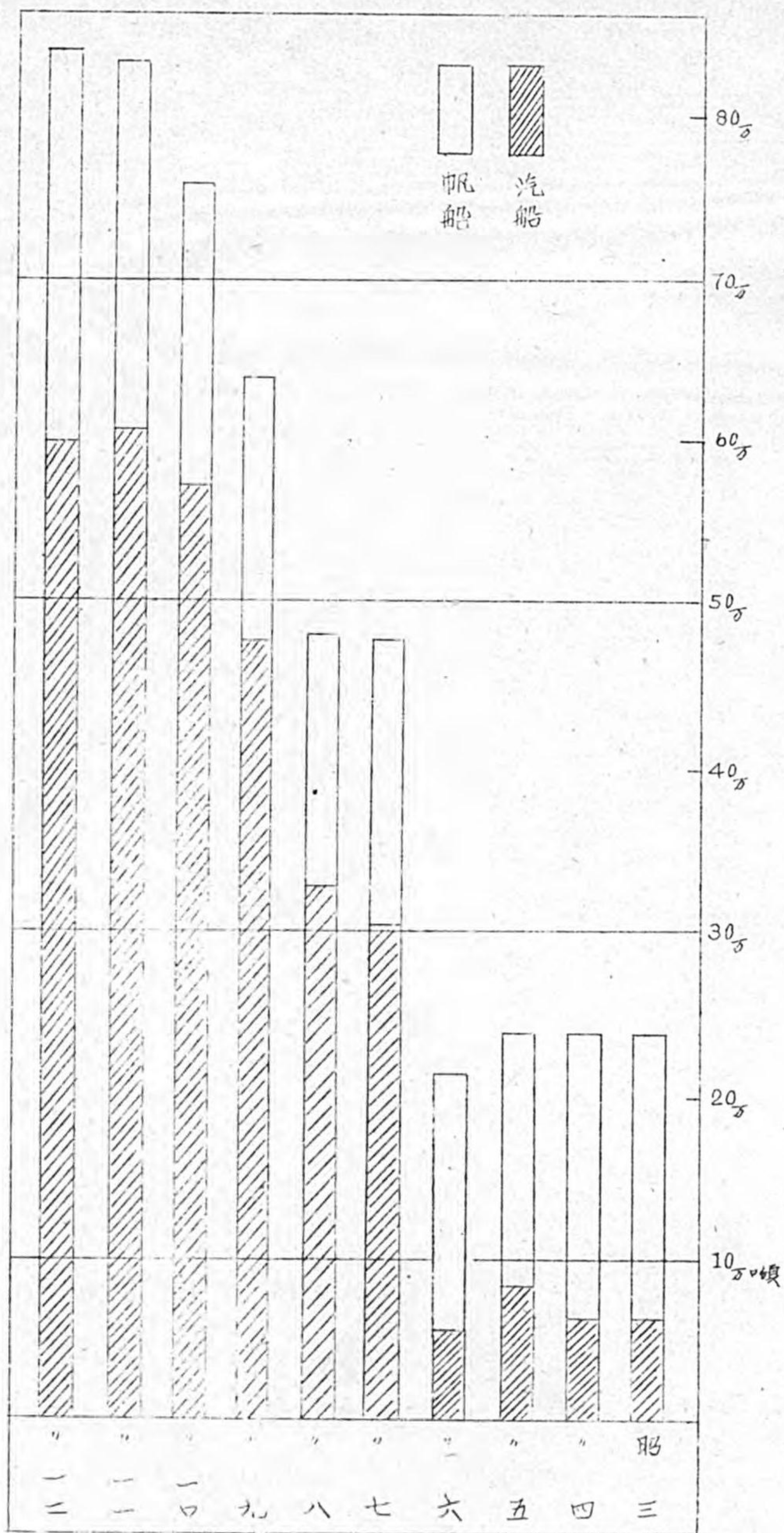
二〇下、関港入港外國貿易船隻數及噸數表



二 下関港貨物出入表

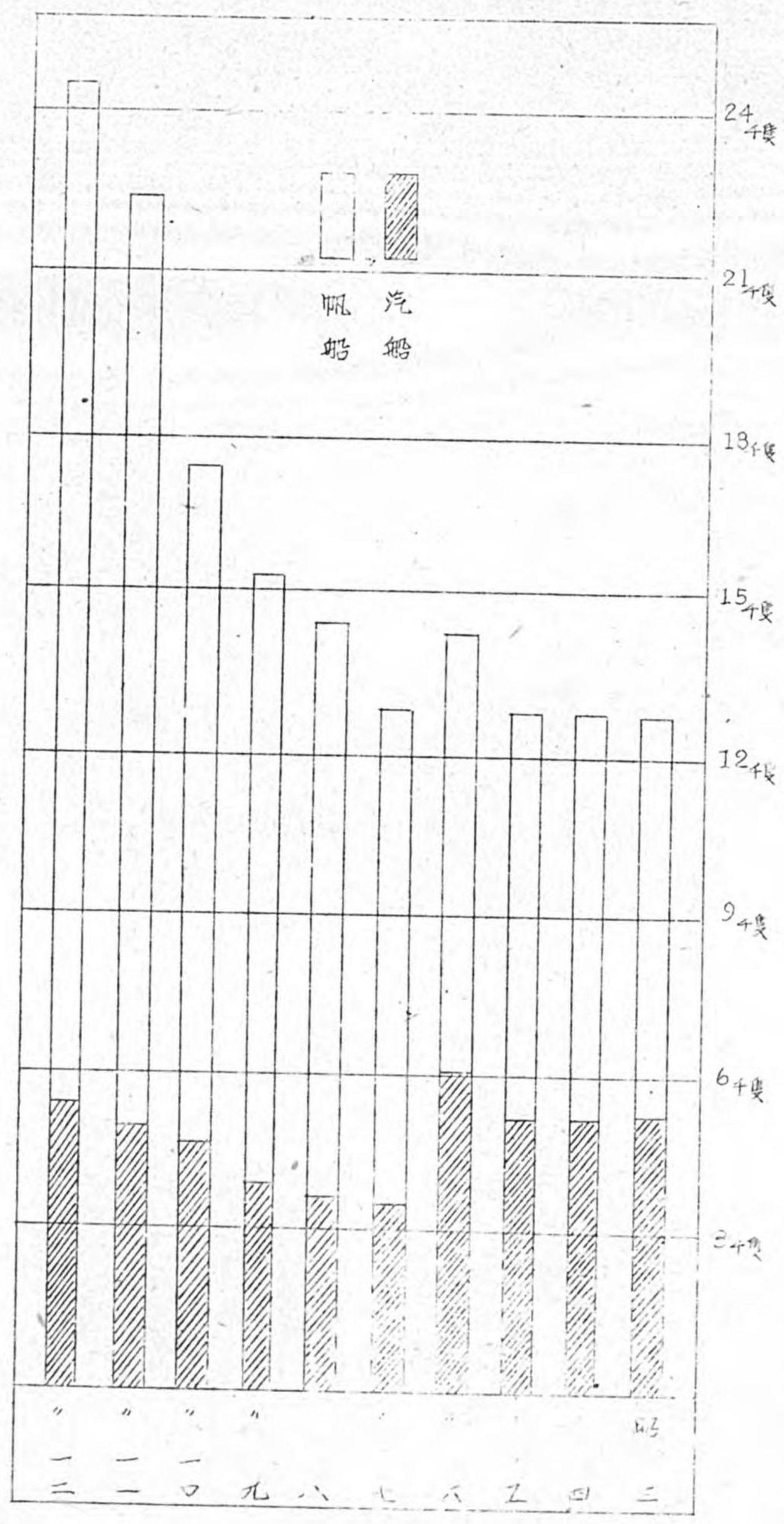


三三小倉港出入船舶表

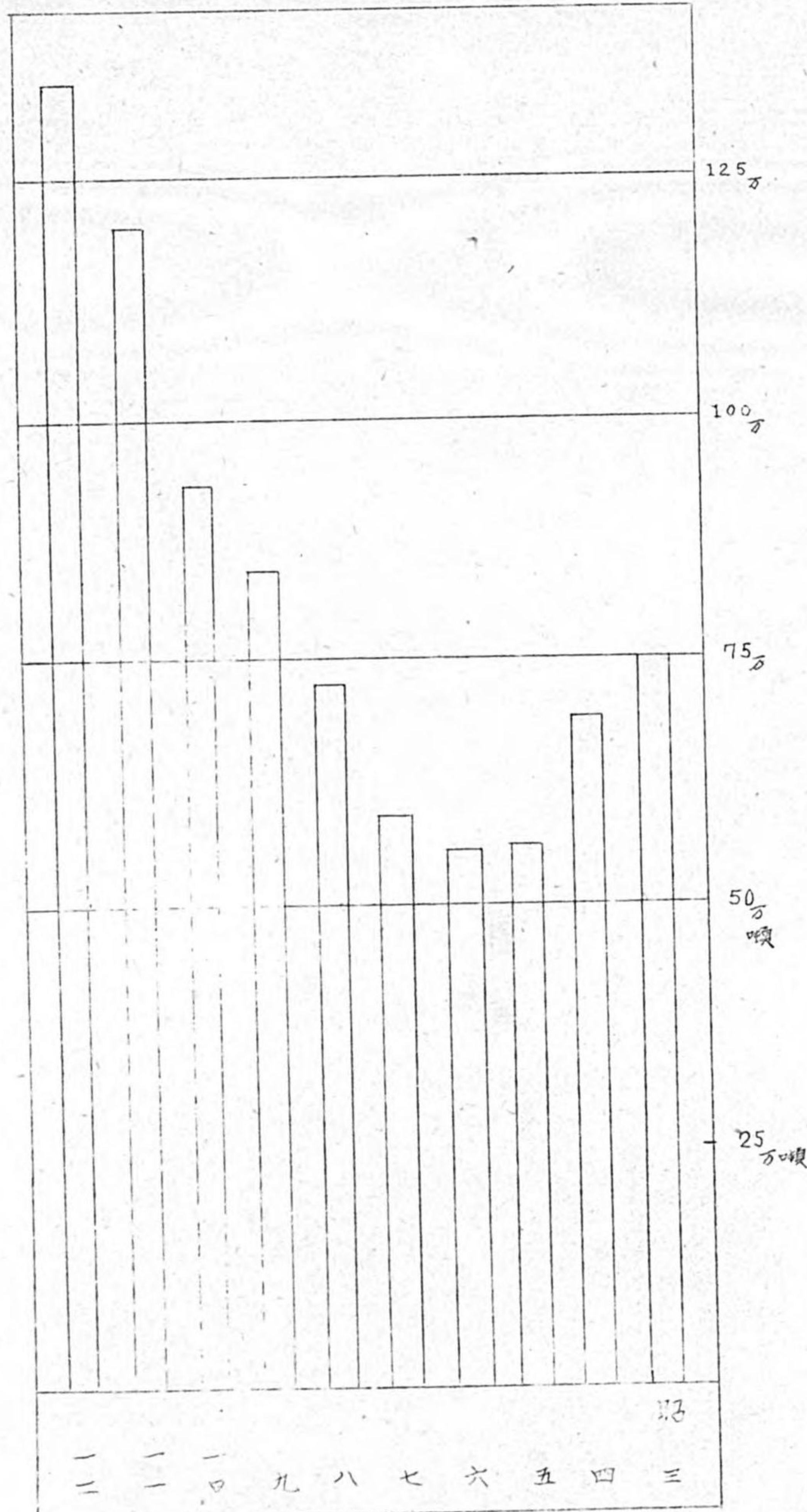


百

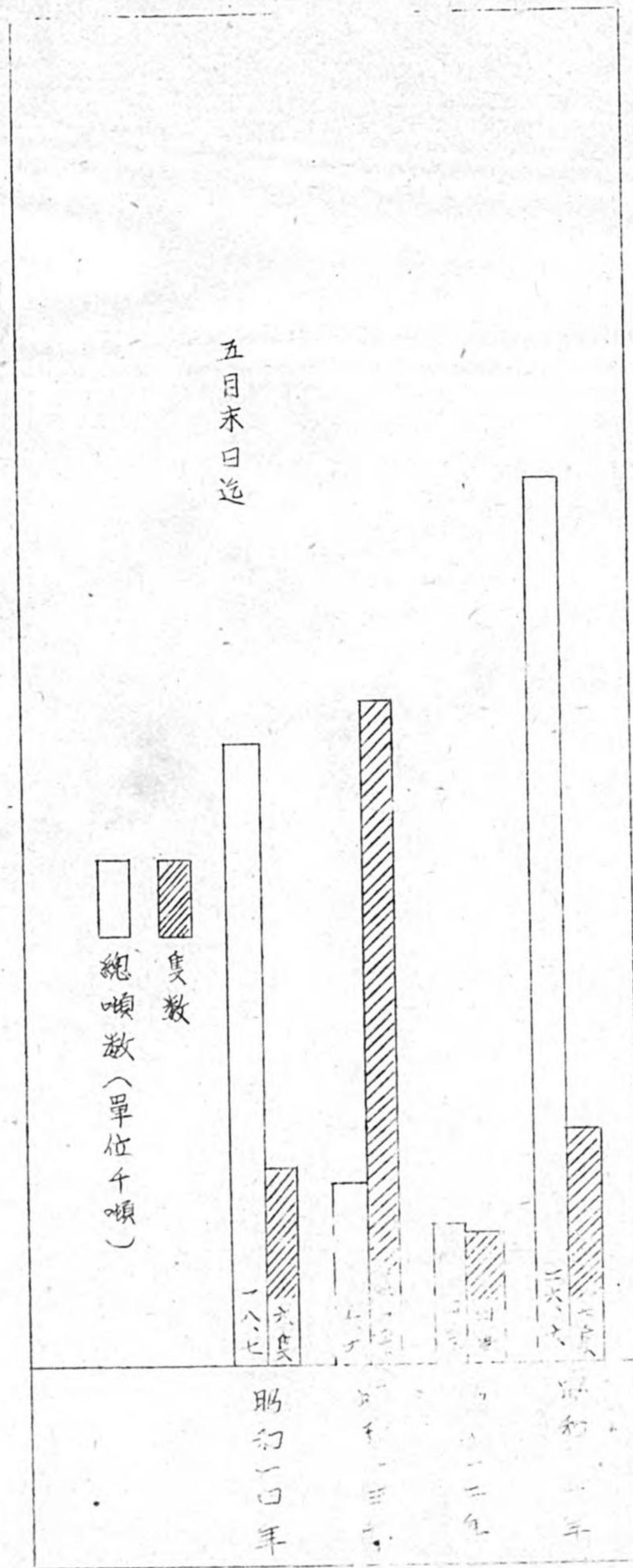
三三小倉港出入船舶隻數



二四小倉港内國貿易額表



三五 小倉港ニ於ケル最近三ヶ年外國貿易船出入狀況



關門海峽綜合改良計畫ノ要旨新聞發表案

(新聞發表案)

我西日本ノ大關門チアリ、重要ナル國際交通路タル關門海峽ハ今次事變ノ勃發以來、愈々其ノ重大性ヲ加ヘ、更ニ東亞新秩序建設態勢ニ即應シテ、將來益々重大性ヲ増加セントシテ居ル情況ニ鑑ミ、此ノ際本海峽ノ航路、港灣、並ニ一般陸上施設ノ整備改良ヲ一定ノ計畫ノ下ニ綜合的ニ施行スルト共ニ、其ノ管理運營ノ適正ヲ期スルコトハ、軍事上將又產業貿易上喫緊ノ要務ト考ヘラレルノチ先般來關門海峽綜合改良計畫ヲ立案シ關係各省緊密ナル連絡ノ下ニ慎重検討ヲ加ヘツツアツタノチアルガ、漸ク成案ヲ得タノチ、其ノ要綱ニ付テ本日閣議決定ヲ見タ次第デアル。

今本計畫ノ要旨ニ付テ述ブレバ

(一) 關門海峽航路ヲ近代交通ニ適應シ得ル様ニ、其ノ幅員ヲ相當増加スルト共ニ、其ノ水深ヲモ増加スルコト

(二) 右ニ關聯シテ、小倉戸畑地先又ハ下關長府地先ニ於ケル工業港

及工業地帯ヲ整備シ以テ躍進日本重工業ノ將來ノ發展ニ備ヘルコト

(三) 現在極度ニ狹隘ヲ告ゲテ居ル門司、下關兩港ノ施設ノ増強ヲ圖ルコト。即兩港ニ於ケル既定計畫ヲ豫定通り遂行スル外、下關港ニ付テハ埠頭ノ増設ヲ圖リ、門司港ニ付テハ、田野浦地先ニ適當規模ノ港灣ヲ築造スルト共ニ、將來海岸ノ整備ヲ期スルコト

(四) 敘上ノ航路及港灣ノ管理運営ノ適正ヲ圖ルコト

(五) 敘上ノ改良ニ即應シテ、航路標識及通信施設ノ整備、鐵道其ノ他ノ一般陸上施設ノ整備ヲ圖ルコト

(六) 關門隧道ノ整備ヲ圖ルコト。即鐵道隧道ニ付テハ現在施行中ノモノノ外更ニ新隧道ヲ開鑿スルコトトシ、國道隧道ニ付テハ既定年度ヲ相當繰上げ完成ヲ圖ルコト

(七) 工事ハ緩急ニ從ヒ第一期、第二期及將來工事ニ區分シ、第一期

工事ニ付テハ早速來年度ヨリ著手シ、早キモノハ數ヶ年、遅キモノハ七八ヶ年ニテ完成ヲ見ルコト。第二期工事以降ノ分ハ將來ノ情勢如何ヲ見テ適當ニ實施スルコト

(八) 工事費總額ハ第一期ノ分ダケテ一億圓ヲ超ユル巨額ニ達スルコト

大體右ニ掲ゲタ様ナモノデアルガ、政府ハ國家百年ノ大計ノ立場ヨリ出來ルダケ其ノ圓滿ナル遂行ヲ期シテ居ル次第デアル。

極秘

閣甲第二三四號

案起

昭和十四年十月十二日

閣議決定

昭和十四年十月十三日施行

昭和 年 月 日

內閣總理大臣

近

內閣書記官長

遠藤

內閣書記官

福田

佐藤

齋藤

外務大臣

高橋

陸軍大臣

磯谷

文部大臣

有田

遞信大臣

齋藤

厚生大臣

近衛

內務大臣

高橋

海軍大臣

近藤

農林大臣

近藤

鐵道大臣

近藤

大藏大臣

齋藤

司法大臣

近藤

商工大臣

近藤

拓務大臣

別紙企畫院總裁上申

航空保安施設整備計畫要綱二

十三

関スル件
右閣議ニ供ス

通牒案

昭和三十四年十月十三日

内閣書記官長

外務大臣
内務大臣
大藏大臣

陸軍大臣

海軍大臣

宛(各通)

文部大臣

商工大臣

逓信大臣

拓務大臣

厚生大臣

對滿事務局總裁

興亞院總裁

陸軍大臣
海軍大臣
文部大臣
商工大臣
逓信大臣
拓務大臣
厚生大臣
對滿事務局總裁
興亞院總裁

航空保安施設整備計畫要綱別紙ノ
通閣議決定相成候條依命此段及通
牒候

昭和十四年十月十三日

内閣書記官長

企畫院總裁宛

依命通牒

昭和十四年十月十一日企畫院上申第九四

號上申航空保安施設整備計畫要綱
關スル件上申ノ通閣議決定相成候

内

企畫院上申第九四號

昭和十四年十月十一日

企畫院總裁 青木一



内閣總理大臣 阿部信行 殿

航空保安施設整備計畫要綱ニ關スル件

航空保安施設整備計畫要綱別紙ノ通閣議決定相成様致度理由ヲ具シ此
段及上申候

主任官第六部 堤書記官

関甲二二四

内閣

極秘

航空保安施設整備計畫要綱

航空保安施設ハ優秀ナル航空機及乗員ト共ニ航空ノ安全性確實性ヲ確保スル爲必要缺クベカラザルモノナルコト世人ノ等シク痛感スル所ナリトス

然ルニ我國ニ於テハ右ニ關スル各般ノ施設極メテ不備ナル實狀ニシテ將來益々高性能化サルベキ航空機ノ科學的航法ニ對スル高度ノ要求ニ想到スルトキ誠ニ寒心ニ堪ヘザルモノアリ。

現下内外ノ情勢ニ照シ航空保安施設ノ整備ヘ帝國ノ特ニ急務トスル所ト云フベク其ノ特殊性ニ鑑ミ統一アル意圖ノ下ニ之ガ綜合的計畫ヲ樹立シ以テ東亞制空權握ノ實現ヲ圖ルノ要アリ。計畫要綱左ノ如シ。

第一 方針

航空保安施設ハ飛行場、航空路照明施設、航空通信、無線嚮導施設、及氣象機關ニ付概ネ五ヶ年計畫ヲ以テ整備スルモノトシ國內幹線、

日滿支連絡線、國際線並ニ陸海軍ノ要望スル航空路線ニ重點ヲ置キ之ガ完成ヲ期スルト共ニ國內支線ノ整備ニ努ムルモノトス。

第二 要領

一、飛行場ノ整備

將來ニ於ケル航空機並ニ航法ノ發達ニ付充分檢討ヲ加ヘ、國際飛行場、幹線路飛行場、支線路飛行場等各種飛行場ノ重要度ニ應ジテ之ヲ甲乙丙及補助ノ四種ニ區別シ此等四種ノ飛行場ガ夫々具備スベキ施設ノ内容ヲ決定シ以テ整備ノ完璧ヲ期スルモノトス。

二、航空路照明施設ノ整備

夜間航空ノ安全確實ヲ期スルガ爲ニハ、無線航法施設ト相俟ツテ航空燈臺及航空路障礙燈ヲ整備スルノ要アルモノニシテ航空燈臺ハ用途ニヨリテ之ヲ甲乙丙及特殊ノ四種ニ區別シ適正ナル配置計

畫ヲ樹ツルモノトス

三、航空通信及無線嚮導施設ノ整備

航空通信中地上通信ニ付テハ有線専用線、對空通信ニ付テハ短波無線ニヨル原則ヲ樹立スルト共ニ地上ニ於ケル無線嚮導方式ハ方向性及無方向性無線標識ト無線羅針トヲ併用シ彼此相勘案シテ配置ノ計畫ヲ定メ以テ施設ノ整備ヲ計ルモノトス。
尙重要飛行場ニハ航空機ノ着陸用無線羅針裝置及着陸用無線標識裝置ヲ設置スルモノトス。

四、氣象機關ノ整備

航空氣象ノ觀測蒐集竝ニ通報ノ完璧ヲ期スル爲氣象機關ノ整備擴充ヲ行フト共ニ飛行機、ラヂオゾンデ、ラヂオトラッキング、雲高測定用雲照燈等ヲ含ム觀測施設ノ充實ヲ計ルモノトス。

諒解事項

本計畫ノ實施ニ際シテハ之ニ要スル經費及資材ニ付財政上及物資動員
上ノ見地ニ基キ別途考慮スルモノトス

極秘

參考

航空保安施設計畫

企計臣交〇〇六一號

昭和十四年九月十四日

企
畫
院
(交通電力動員委員會)

目次

- 第一 航空保安施設整備方針
- 第二 航空路ニ關スル事項
- 第三 飛行場施設ニ關スル事項
- 第四 航空路照明施設ニ關スル事項
- 第五 航空無線施設（地上及機上）ノ方式竝ニ飛行場間通信連絡施設ニ關スル事項
- 第六 航空路擴充ニ伴フ氣象施設整備ニ關スル事項

航空保安施設計畫

第一、航空保安施設整備方針

航空保安施設ハ別項計畫航空路ニ就テ概ネ五ヶ年計畫ヲ以テ整備スルモノトシ國內幹線、日滿支連絡線、國際線並ニ軍ノ要望スル航空路線ニ重點ヲ置キ之ガ完成ヲ期スルト共ニ國內支線ノ整備ニ努ムルモノトス

本計畫ハ情勢ノ變化ニ應シ改變増補スルコトアルモノトス

一、國內幹線、日滿支連絡線、國際線

既設線

(1) 飛行場、通信、氣象及照明ノ各施設ヲ併行シテ實施ス

(2) 昭和十五年度ヨリ概ネ三ヶ年ヲ以テ完成ス

新設線

其ノ航空路開設時期ヲ考慮シ概ネ既設線ニ準シ整備ス

二、國內支線

既設線

(1) 概ネ通信、氣象、飛行場及照明ノ順序ヲ以テ實施ス

(2) 昭和十五年度ヨリ概ネ五ヶ年ヲ以テ整備ス

新設線

其ノ航空路開設時期ヲ考慮シ概ネ既設線ニ準シ整備ス

第二 航空路ニ關スル事項

茲ニ航空路ト稱スルハ主トシテ航空輸送ニ從事スル航空機ノ航路線及其ノ航空路線上ノ飛行場トス
而シテ航空路ヲ國內幹線航空路、國內支線航空路、日滿支連絡航空路及國際航空路ニ區分ス

其ノ一方 針

一、航空路ハ概ホ既設航空路ヲ基礎トシ將來ノ發展及軍ノ要望ヲ考慮シ改變増補ヲ行フモノトス

二、航路線ハ發着スベキニ飛行場間ヲ結ブ直線トスルヲ主旨トスルモ地形及飛行禁止區域ノ關係ニヨリ部分的ニ折線トス

三、飛行場ハ別ニ定ムル基準ニヨリ設定ス
其ノ二 計畫要領

一、國內幹線航空路

國內幹線航空路ハ帝國ノ地勢ニ基キ東京ヲ起點トシ領土ヲ縱貫シテ